

米國海上法

中
上
卷
完

寫本
米國海上法
附錄書式
第八百九十一
第十
完

第六號
第一架
第七

司法省
第三七號
寄贈圖書文庫

B853
S1-5
1f





B853
51-5
1f

奉天省海防研究

司法部記錄文庫
保
第八百八十九號
六冊ノ内

附錄炮台 1年
54年
合衆國最ニ裁新所請炮台
1年
三三〇一ノ四四炮台
116年

奉天省

B853
-S1-5
1f

附録規則

〇一千八百四十四年八月二十二日決議第
百八十八條ノ趣意ニ基キ制定シタル海
上始審裁判ノ権カヲ有シタル合衆国裁
判所訴訟規則

〇一千八百四十四年十二月制定

オ一條 凡ソ海上裁判権ニ屬スル民事ノ訴訟
ニ於テ郡裁判所ヨリ祭スヘキ諸般ノ令状ハ
其令状ヲ祭スヘキ裁判所ノ昏記局ニ公私ノ
訴状ヲ差出シタル後ニアラサレハ之ヲ祭行
スルトヲ得サルモノトス
又諸般ノ令状ハ「マルシヤール館若クハ其屬
員ヲシテ送達セシムヘキモノトス但シ該官

又ハ其屬負其訴訟ニ關係アルキハ裁判所ニ於テ全ク其訴訟ニ關係アラサル者ヲ選任シ其者ヲシテ之ヲ送達セシムルモノトス
才二条 凡ソ人權ニ関スル訴訟ニ於テ控訴スヘキ令状ハ拘引状ノ性質ヲ帯ヒタル被告人逮捕状若クハ被告人ヲ控訴見シ能ハサルキハ其訴訟請求高ニ相應スル被告人所有ノ財産ヲ差押フヘキノ箇条ヲ記載シタル被告人逮捕状又或ハ前上ノ財産ヲ控訴見シ能ハサルキハ令状ニ指名シタル差押人ヲシテ其訴訟請求高ニ相應スル被告人ノ権利及ヒ財産ヲ差押ヘシムヘキ旨ヲ記シタル令状又ハ訴訟人其訴訟ヲ以テ請願或ハ選定シタル場合ニ於テハ其

訴訟上出度答弁スヘキ旨ヲ記載シタル所謂召喚状ノ性質ヲ帯ヒタル單純ノ呼出状等ヲ總稱ストモノナリ
才三条 凡ソ人權ニ関スル訴訟ニ於テ若シ單純ノ逮捕状ヲ控訴執行シタルキハ「マルシヤ」ル館ハ其差押ヘラレタル人ヨリ充分ノ証人ヲ具シタル保釈証各又ハ約定各ヲ差出サシメ其訴訟中何時ヲ問ハス裁判所ノ命令ニ從ヒ出度シ且ツ其令状ノ復命ヲ為スヘキ裁判所又ハ上訴裁判所ニ於テ下シタル終審ノ裁判ヲ以テ決定シタル金額ヲ拂フヘキ約定ヲ為サシムルヲ得ヘキモノトス
又右証各又ハ約定各ニ依リ控訴スヘキ簡易法

上ノ執行状ハ其復命ヲ為スヘキ裁判所ニ於
テ前上終審ノ裁判ヲ執行セシムヘキ為メ或
ハ上訴裁判所ニ為シタル上訴ニ依テ本人及
ヒ保証人ニ對シテ之ヲ差スルコトヲ得ヘキモ
ノトス

才四条 人權ニ関スル訴訟ニ於テ財産或ハ權
利及ヒ家財差押ヘノ旨ヲ記シタル令状ヲ以
テ之ヲ差押ヘタル場合ニ當リ復命ヲ為スヘ
キ裁判所ノ命令アルニ於テハ其差押ヲ取消
スコトヲ得ヘキモノトス但シ此場合ニ於テハ
先ツ其差押ヲ受ケタル被告人ヲシテ何時ヲ
向ハス裁判所ノ命令ニ從ヒ且ツ其令状ノ復
命ヲ為スヘキ裁判所若シハ上訴裁判所ニ於

テ下スヘキ終審ノ裁判ヲ以テ決定シタル金
額ヲ償却スヘキ旨ヲ記シ而シテ充分ノ証人ヲ
具ヘタル証人又ハ約定昏ヲ差出サシムルモ
ノトス

又右証昏若シハ約定昏ニ依リ差スヘキ簡易
法上ノ執行状ハ其復命ヲ為スヘキ裁判所ニ
於テ前上終審ノ裁判ヲ執行セシムヘキ為メ
或ハ上訴裁判所ニ於ケル上訴ニ依テ本人及
ヒ保証人ニ對シテ之ヲ差スヘキモノトス

才五条 海上訴訟ニ関スル証昏若シハ約定昏
ハ公庭或ハ事務局或ハ裁判所ニ於テ未決ノ
事件ニ就キ保釈ノ誓詞及ヒ証人陳述書ヲ録
取スヘキ任ヲ受ケタル裁判所委員ノ面前ニ

於テ之ヲ受殺スルモノトス

才六条 允リ人權ニ関スル訴訟ニ於テ保釈ヲ
允許スヘキ場合ニ當リ裁判所ハ歎願ニ依リ
相当ノ理由アルキハ証書及ヒ約定書ニ記載
シタル金高ヲ減少スルト得ヘキモノトス
又保釈ノ証或ハ前陳ノ如キ所有品ノ差押ヲ
取消スヘキ場合ニ當リ証書又ハ約定書ヲ領
取シタル時ニ於テ若シ保証人中ノ一名其訴
訟中分散シタルキハ歎願及ヒ其証拠ニ依リ
裁判所ノ命令ヲ以テ更ニ新タナル保証人ヲ
差出サシムヘキ求メヲ為スヘキト得ルモ
ノトス

才七条 人權ニ関スル訴訟ニ於テ被告人若ク

ハ其所有品ニ對スル差押状ハ五百弗以上ノ
金額ナルニ於テハ之ヲ祭スルト得サルモ
ノトス但シ其所有品ヲ記載シタル誓書又ハ
其他ノ確實ナル証拠ニ依テ裁判所ニ於テ特
別ノ命令ヲ下スキハ格別ナリトス

才八条 船舶、船具、帆、船具、家具、端船若クハ其他
ノ船舶ノ附属品ニ對スル物權ノ訴訟ニ於テ
若シ其船具、帆、船具、家具、端船若クハ其他ノ船
舶ノ附属品才三ノ人ノ占有若クハ管守ニ屬
スルキハ裁判所ハ右才三ノ人ニ對シ当然ノ
呼出状ヲ發シ何故ニ前上ノ物品ヲ引渡サ、
ル哉ノ審問ヲ遂ケタル後果シテ法律及ヒ條
理ニ適スルキハ「マールシヤール」官若クハ其他

相当ノ官吏ニ之ヲ引渡シ管守セシムヘキ
 ヲ裁決スルヲ得ヘキモノトス
 又九条 差押ノ訴訟及ヒ其他物権ニ関スル訴
 訟ニ於テ捺スヘキ令状ハ成法上別段ノ制規
 アル場合ノ外船舶荷物若クハ其他ノ物品ニ
 係ル差押状ニ限ルモノトス
 又「マルシヤール官ハ該令状ニ依テ船舶荷物
 及ヒ其他ノ物品ヲ差押ヘ而シテ安全ニ管守ス
 ヘキ為メ之ヲ領收シ而シテ其旨ト其令状ノ復
 命及ヒ右訴訟審問ノ期日トヲ郡裁判所ニ於
 テ指定シタル地方ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘ
 キモノトス
 若シ又該地方中ニ公告ヲ為スヘキ新聞紙ア

ラサル場合ニ於テハ裁判所ヨリ命シタル地
 方内ノ公ノ場所ニ之ヲ掲示スヘキモノトス
 又十條 積荷若クハ其物品ノ差押ヲ為シタル
 場合ニ於テ其訴訟中之ヲ管守スル中ハ其物
 品消耗破壊或ハ損敗或ハ其他ノ損害ヲ未
 一キキハ該裁判所ニ於テ原被中一方ノ者ノ
 請願ニ依リ果シテ相当ト思料スル中ハ右破
 壊毀損若クハ損害ヲ生スヘキ物品ノ全部若
 クハ幾部ヲ賣却スヘキ命令ヲ下スヘキ得
 キモノトス
 前上ノ賣得金若クハ其幾部ヲ以テ判決ノ金
 額ヲ償フニ足ルヘキ中ハ其訴訟ノ結局ヲ安
 カラシムル為メ裁判所ニ之ヲ提出スヘキ命

令ヲ下スヲ得ヘキモノトス
 又裁判所ハ原告人ノ請求ニ依テハ其命令ヲ
 以テ相当ノ評價ヲ行ハシメタル上前上ノ物
 件ヲ原告人ヘ引渡スヘキノ命令ヲモ發スヘ
 キヲ得ヘキモノトス但シ此場合ニ於テハ
 裁判所若クハ上訴裁判所ニ於テ下スヘキ判
 決ヲ以テ決定シ又ハ上訴ニアテサル他ノ方
 法ヲ以テ命令シタル金額ヲ納付セシムル為
 メ其裁判所ニ於テ命シタル金額ヲ豫納セシ
 メ或ハ裁判所ニ於テ指定シタル保証ヲ具ヘ
 タル約定昏ヲ差出サシムヘキモノトス
 又十一条 前上ト等シク船舶ノ差押ヲ為シタ
 ル場合ニ於テ裁判所ハ原告人ノ請願ニ依テ

ハ其命令ヲ以テ相当ノ評價ヲ行ハシメタル
 上右船舶ヲ原告人ニ引渡スヘキノ命令ヲ下
 ストヲ得ヘキモノトス但シ此場合ニ於テ右
 原告人ヲシテ其裁判所ヨリ指令シタル金額
 ヲ豫納セシメ或ハ前陳ノ如キ保証ヲ具ヘタ
 ル約定昏ヲ差出サシムヘキモノトス
 若シ原告人ニ於テ如斯請求ヲ取消ス場合ニ
 於テ裁判所ニ於テ原被一方ノ者ノ請願ニ依
 リ相当ノ理由アリト認メタル片ハ其船舶ヲ
 公賣シ而シ其賣得金ハ裁判所ニ差出スヘシ
 命スルトヲ得ヘシ若シ又公賣ニ付セサルヲ
 以テ最モ利益アリト認メタル片ハ他ノ方法
 以テ之ヲ賣却スルトヲ得ヘキモノトス

才十二条 凡リ外国ノ船舶若クハ外国ノ港ニ碇泊シタル船舶ニ対シ給與修繕若クハ其他ノ供給ヲ为シタル本人該船舶ニ係リ諸般ノ訴訟ヲ起スヘキ場合ニ於テ其原告人ハ物權ニ係ルキハ其船舶及ヒ運賃ニ対シ人推ニ係ルキハ其船長若クハ独リ其船舶ノ所有者ニ対シ出訴スルトヲ得ヘキモノトス

前上物權ニ係ル訴訟ニ於テ若シ地方ノ法律ヲ以テ給與修繕若クハ其他ノ供給ヲ为シタル本人ニ差押ノ權ヲ附與シタル場合ニ於テハ内國ノ船舶ニ係ル規則ヲ適用スルトヲ得ヘキモノトス

才十三条 航海者ノ俸給ニ関スル諸般ノ訴訟

ニ於テ其原告人ハ其船舶運賃及ヒ船長若クハ其船舶及ヒ運賃或ハ人推ヲ以テ其船舶ノ所有主及ヒ獨リ人推ニ於テ船長ニ対シテ出訴スヘキトヲ得ヘキモノトス

才十四条 水先料ニ関スル諸般ノ訴訟ニ於テ其原告人ハ其船舶及ヒ船長若クハ其船舶或ハ人推ヲ以テ其船主一人又ハ其船長一人ニ対シ出訴スルトヲ得ヘキモノトス

才十五条 衝突ニ因テ生シタル損害ニ関スル諸般ノ訴訟ニ於テ其原告人ハ其船舶及ヒ船長若クハ其船舶或ハ人推ヲ以テ其船主ノミニ対シ出訴スルトヲ得ヘキモノトス

才十六条 海上若クハ其他海上裁判管轄内ニ
於テ起リタル改打争闘ニ関スル諸般ノ訴訟
ハ獨リ人權ニ限ルモノトス

才十七条 凡ソ船長外国港ニ在テ航海ノ為ノ
必要ナル給典修繕若クハ其他ノ供給ヲ遂ル
為ノ明文若クハ不文ノ質入契約ヲ以テ借入
レタル金額ニ就キ其航海利益ヲ請求セスシ
テ全ク其船舶若クハ運賃ニ対スル諸般ノ許
訟ノ場合ニ於テ其原告人ハ物権或ハ其船長
若クハ獨リ船主ノミニ対シ人權ノ訴訟ヲ為
ス得ヘキモノトス

才十八条 当然名称ヲ得ヘキ船積証書ニ関ス
ル諸般ノ訴訟ニ於テハ全ク其昏入質ニ為シ
タル財産若クハ何人ノ手ニアルヲ問ハス其
財産ヨリ生スル所得ニ対スル所謂物権ノ許
訟ナリトス但シ其船長ニ於テ委任ヲ受ケス
シテ船積証書ヲ渡シ或ハ右船長ノ詐偽若ク
ハ惡意ヲ以テ其義務ヲ免カレ或ハ財産ヲ減
少シ或ハ船舶ノ所有主ニ於テ惡意ヲ以テ財
産ヲ費消若クハ減少シタル中ハ格別ナリト
ス

前上ノ如キ場合ニ関スル訴訟ハ惡行者ニ対
スル人權ノ訴訟タルヘシ

才十九条 救助ニ関スル諸般ノ訴訟ニ於テハ
救助ヲ受ケタル財産若クハ其財産ヨリ生ス
ル所得ニ対スル物権ノ訴訟タルヘシ但シ人

即チ救助ヲ請ヒ及ヒ其救助ノ為ノ利益ヲ得
タル人ニ対シテハ人権ノ訴訟ヲ為スルヲ得
ヘキモノトス

第二十条 凡ソ権利ノ確認及ヒ所有権ノ引渡
若クハ所有権ニ関シテ船舶ノ共有者或ハ独
有者相互ノ間或ハ其所有主或ハ其共有者中
ノ数人ヨリ船長ニ対スル請求及ヒ所有権上
ノ諸般ノ訴訟或ハ共有者ノ承諾ヲ得ヌシテ決
定シタル航海ニ就キ其船舶ノ帰来ヲ証スヘ
キ保証ヲ得ント右共有者ノ一人又ハ数人ヨ
リ他ノ共有者ニ対スル請求及ヒ所有権ニ関
スル諸般ノ訴訟或ハ船舶ノ安全ニ帰来スル
ヲノ保証ヲ得タル上航海中其船舶ノ所有権

ヲ得ント右共有者ノ一人又ハ数人ヨリ他ノ
共有者ニ対スル前陳ノ如キ訴訟ノ場合ニ当
リ突スヘキ令状ハ其船舶ノ差押状及ヒ相手
方ノ一人若クハ数人ヲシテ右訴訟ニ出庭及
ヒ答弁ヲ為サシムヘキノ呼出状ニ限ルモノ
トス

第二十一条 金額弁償ニ関スル終審ノ判決ヲ
受ケタル場合ニ於テ原告人ハ「マルシアール」
官若クハ其属員ヲシテ被告人若クハ結約者
所有ノ財産、土地及ヒ家屋或ハ其他ノ不動産
中ヨリ其弁償ニ係ル金高ノ徴集ヲ為サシム
ヘキ旨ヲ記シタル所謂執行状ノ性質ヲ帯ヒ
タル執行令状ヲ求ムルノ権アルモノトス

第二十二條 合衆國ノ税則若クハ航海規則若
 ヲハ其他ノ法律ノ違反ニ就キ差押ヲ求ムル
 諸般ノ告發狀及ヒ公訴狀ハ其差押ヲヘキ場
 所即チ陸上若クハ海上若クハ合衆國ノ海上
 裁判管轄内ニアル航行シ得ヘキ水上ナルカ
 ヲ記載シ及ヒ財産ヲ運致シ未レル地名及ヒ
 其財産ノ現在ナル處ノ地名ヲモ記載スヘキ
 モノトス
 又告發狀若クハ公訴狀ハ箇条ヲ分チ差押ノ
 理由或ハ原由トナル一キ諸般ノ事件ヲ詳記
 スヘシ場合ニ依テハ其差押ハ合衆國ノ成法
 及ヒ憲法ノ法式ニ違背シタルヲモセシム
 ヘシ

又差押ノ執行ニ付其令狀ノ願人ト悞議シ及
 ヒ其差押ヲ決シ難キ場合ニ於テハ其令狀ノ
 復命日ヲ以テ其差押ニ就キ利害ノ關係ヲ有
 シタル各人ヲシテ其理由ヲ証明セシムヘシ
 第二十三條 民事若クハ海事ヲ論セス總テ始
 審ノ訴訟ニ係ル諸般ノ訴狀ハ其訴訟ノ原由
 ヲ記載スヘシ即チ民事及ヒ海事上ノ契約或
 ハ損害若クハ損害賠償或ハ救助或ハ占有或
 ハ場合ニ依リ其他ノ訴訟タルヲ記載スヘ
 シ

又訴訟物權ニ係ルキハ財産ノ現存スル地名
 又人推ノ場合ニ於テハ訴訟關係者ノ氏名職
 業及ヒ住居ノ地ヲ記載スヘキモノトス

又訴状ハ箇条ヲ分テ原告訴訟ヲ確固ナラシムヘキ其訴訟ノ事實ヲ詳記シ之ニ依テ被告人ヲシテ其各条ニ列記シタル事件ヲ詳密ニ答弁セシムヘシ

又其本文ニハ物権若クハ(場合ニ依テハ)人権ニ係ル原告人ノ権利ヲ行フヘキ令状ノ発行及ヒ冒頭ニ掲ケタル事状ニ從ヒ裁判所ノ相当ト思料スヘキ救助ヲ求ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

又其他原告人ハ訴状ノ紙末ニ於テ其訴状中ニ記載シタル諸般ノ事件ノ全部及ヒ一部ニ関シ原告人ヨリ申立テタル總テ疑問ヲ被告

人ヲシテ誓詞ノ上答弁セシムヘキノ求メヲ

為シ得ヘキモノトス

才ニ十四条 海上裁判権ニ属スル訴訟ニ関スル諸般ノ公訴状及ヒ訴状中各式ニ違フタルヲアルキハ何時ヲ問ハス当然裁判所ニ歎願ノ上之レカ更正ヲ為スヲ得ヘキモノトス

又新ナル書類ヲ差出スヲ得而ノ事實ノ違フタルヲアルキハ歎願ノ上裁判所ニ於テ定メタル期約ニ從ヒ裁判結局前何時ヲ問ハス其更正ヲ為スヲ得ヘキモノトス

又各式ニ違背シタル所以ヲ被告人ニ於テ特別故障状ヲ以テ証明シ及ヒ之レカ認可ヲ得タル場合ニ於テ裁判所ハ右更正ヲ為スヘキ允可ヲ與フルニ就キ原告人ニ對シ期約ヲ定

ムルヲ得ヘキモノトス

オ二十五条 人権ニ関スル訴訟ノ場合ニ於テ
若シ未タ保釈ヲ許サレサル時及ヒ其訴状ノ
目的ヲ達スル為メ未タ財産ヲ差押ヘサル時
ハ被告人出度ノ際裁判所ノ意見ヲ以テ他日
其訴訟ノ判決或ハ訴訟中命令書ヲ以テ命ス
ヘキ諸般ノ費用ヲ償ヒシムルニ足ルヘキ金
額ヲ定メ被告人ヲシテ其金額ニ相当スル保
証ヲ具ヘタル約定書ヲ差出サシムルヲ得
ヘキモノトス

オ二十六条 元ノ物権ノ訴訟ニ於テ財産ニ対
シ請求スル者ハ宣誓或ハ証言ヲ行フタル上
其請求者自身又ハ代人ハ正実ナル所有者ニ

シテ決シテ他ニ其所有者アラサル旨ヲ陳述
シタル後其請求ノ如何ヲ証明スヘキモノト
ス

又代人又ハ受託人ニ於テ前上ノ訴訟ヲ提起
スル中ハ其所有者ヨリ正当ノ委任ヲ受ケタ
ル旨ヲ誓言セシムヘキモノトス

若シ又差押当時現ニ船長ニ於テ其財産ヲ占
有シタル中ハ其差押人ハ所有主ノ正当ナル
代人タル所以ヲ誓言セシムヘキモノトス

又前上ノ請求ヲ起スニ當テ其請求者ハ他日
裁判所ノ判決又ハ上訴ノ場合ニ在テハ上訴
裁判所ノ判決ヲ以テ命スヘキ諸般ノ費用償
却ノ為メ裁判所ニ於テ定メタル金額ニ相当

スル保証ヲ具ヘタル約定旨ヲ差出スヘキモ
ノトス

才二十七条 民事及ヒ海上裁判権ニ属スル訴
訟ノ場合ニ当リ其訴訟物権若クハ人権ナル
トヲ問ハス其訴訟状中ニ記載シタル諸般ノ
申立ニ対シ答ヘタル被告人ノ答弁旨ハ總テ
警詞或ハ証言ヲ記スヘキモノトス
又右答弁旨ハ訴状中ニ掲ケタル順序ニ従ヒ
各条及ヒ各申立ニ対シ充分確實ニシテ且ツ
詳細ニ其答弁ヲ附スヘキモノトス
又前上ト同一ノ方法ニ従ヒ訴状ノ紙末ニ申
述ヘタル各疑問ニ対シ答弁ヲ為スヘキモノ
トス

才二十八条 原告人ハ其訴状中ニ掲ケタル各
条及ヒ疑問ニ對スル答弁旨ノ不充分不明瞭
若クハ不適當ナルトアルキハ異議ノ申立ヲ
為スルヲ得ヘシ

又若シ裁判所ニ於テ右申立ノ全部若クハ其
幾部ヲ正当ニシテ且ツ条理アルモノト判決
シタル場合ニ於テハ其裁判所ニ於テ指定シ
タル期限内ニ被告人ヲシテ直チニ右異議ノ
申立ニ対シ答辯ヲ為サシムヘキノ命令ヲ下
シ而シテ猶ホ裁判所ニ於テ正当ナリト決定シ
タル右費用ヲ被告人ヲシテ差出サシムヘキ
ノ命令ヲ下スルヲ得ヘキモノトス
才二十九条 若シ被告人ニ於テ令状ノ復命ノ

当日若クハ裁判所ヨリ指定シタル其他ノ期
日ニ至リ原告ノ訴状ニ対シ相当ノ答辨ヲ為
スルヲ怠リ若クハ之ヲ肯セサルハ裁判所
ニ於テ被告人ニ対シ抗命及ヒ懈怠ノ罪アリ
ト宣告スルヲ得ヘシ

原告人ハ被告人ニ於テ抗命ノ宣告ヲ受ケタ
ル旨ノ言渡ヲ受ケ而シテ裁判断所ニ於テハ一方
ノ者ノ請求ヲ聽キ而シテ法律及ヒ公平ニ從ヒ
其判決ヲ下スヘキモノトス

然レモ裁判所ハ其意見ヲ以テ右懈怠ノ言渡
ヲ取消スルヲ得而シテ被告人ノ情願ニ依リ右
審問ノ結局及ヒ判決前何時ヲ問ハス原告ノ
訴状ニ答弁スヘキ旨ヲ被告人ニ対シ許スル

ヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テ被告人ハ右允可
ヲ得タル日マテニ生シタル諸般ノ訴訟費用
ヲ償却スヘキモノトス

才三十条 被告人答弁ヲ為ストモ訴状中各
条記載シタル諸般ノ事件ニ対シ充分確實ニ
シテ且ツ詳細ナル答辨ヲ為サ、ルヲ以テ原
告人ヨリ異議ノ申立ヲ為シ而シテ其申立認可
セラレタル場合ニ当リ裁判所ニ於テハ引致

状ヲ發シ被告人ヲシテ原告ノ訴状ニ答弁ヲ
為サシムルヲ得ヘシ又ハ其異議ノ事件ヲ
指示シ若シ之ニ対シ充分ノ答辨ヲ加ヘサル
ハ恰モ初ノヨリ全ク其答辨ヲ加ヘサル時

ト等シク抗命ノ判決ヲ受クヘキ旨ヲ命スル

トヲ得ヘキモノトス

才三十一条 被告人ハ自己ノ答弁昏ヲ以テ訴
状中ニ記載アル申立若クハ疑問ニ対シ答弁
ヲ拒ムトヲ得可シ但シ原告ノ訴状ヲ以テ被
告人ヲ犯罪者トシ或ハ刑事上罰金若クハ被
告人ノ財産差押ヲ求メタル時ニ限ルヘシ
才三十二条 被告人ハ其答弁昏ノ紙尾ニ於テ
訴状中ニ記載シタル事件或ハ其答弁昏中ニ
記列シタル各辨ノ事件ニ関シ原告人ニ対シ
開陳シタル諸般ノ疑問ニ就キ原告人ヲシテ
誓詞或ハ証言ヲ行フタル上答弁セシムヘキ
求メヨヲ為スノ権アルモノトス但シ才三十一
条ニ掲ケタル処刑或ハ差押ノトヲ却テ原告

人ニ対シテ申立テタル場合ニ於テハ格別ナ
リトス

右質問ニ対シ原告人答弁ヲ怠リタル場合ニ
於テハ裁判所ハ其原告人ヲ懈怠ノ罪アリト
シ而シテ其訴状ヲ却下スヘキ判決ヲ為ストヲ
得或ハ引致状ヲ發シテ強テ答弁ヲ為サシメ
或ハ裁判所ニ於テ公正ヲ保全スルニ適當ナ
リト思料シタル場合ニ於テハ被告人ノ利益
ニ関スル疑問ノ理由ヲ申立テシムルトヲ得
ヘシ

才三十三条 若シ原告人若クハ被告人他ノ管
轄地ニ在ルカ或ハ疾病ニ係リ或ハ其他ノ事
故アルヲ以テ期日ニ至リ誓詞若クハ証言上

ノ問題ニ答弁スルハ能ハサル中ハ裁判所ニ
於テ其裁判ヲ行フニ妨ケナシト見込ム中ハ
直ニ之ヲ認可シ或ハ可成速ニ被告人ヲシ
テ答弁ヲ為サシムヘキノ命令ヲ下スルヲ得
ヘキモノトス

第三十四條

凡ソ物權ニ関スル海上裁判權ニ

屬スル訴訟中第三ノ人之利害ノ關係ヲ

有シ而シテ海上裁判手續ニ從ヒ己ノ利益ニ関

スル審問ヲ求ムヘキ權アルハ其第三ノ人

ハ其相当ノ申立ヲ為スヘシ此時ニ當リ裁判

所ニ於テ於申立ヲ認可シタル中ハ相手方訴

訟關係者ノ一名若クハ數名ハ裁判所ノ下命

ニ依リ相当ノ答弁ヲ為スヘキモノトス但シ

如斯裁判手續及ヒ裁判所ノ判決ハ法律及ヒ

條理ニ屬スヘキモノトス

然レモ前項ノ如キ訴訟關係者ハ其申立昏ヲ

提出シタル後他日此訴訟ニ於テ下スヘキ終

審ノ判決ニ復從シ且ツ始審裁判所又ハ上訴

裁判所タルヲ問ハス總テ終審ノ判決ヲ以テ
命スヘキ諸般ノ訴訟費用及ヒ損害賠償ヲ償
還スヘキ保證ヲ具ヘタル約定各ヲ差出ヘキ
求ヲ受クヘシ

第三十五條 海上ノ訴訟ニ関スル約定書ハ公
庭若クハ事務局ニ於ケル裁り裁判官若クハ
其裁判官ノ命ヲ受ケ該裁判所常置委員即チ
現ニ法律上保釈証各及ヒ合衆國諸裁判所ニ
於テ受理スヘキ民事ノ訴訟ニ於テ証人訊問
書ヲ録取スヘキノ權アル裁判所委員ニ於テ
之ヲ録取スヘキモノトス

第三十六條 凡ソ故障ハ無關係或ハ不適當或
ハ誣謗ニ関スル訴狀申立各或ハ答辯各ニ對

スル場合ノ外之レヲ為ス丁ヲ得サルモノト
ス

又若シ「マストル」館ニ附シタル委審ノ場合ニ
於テ為シタル異議ノ申立ヲ拒ミ而シテ之ヲ裁
判所ニ於テ認可シタル片ハ原告中其委審
ヲ求メタル者ヲシテ其費用ヲ擔當セシメタ
ル上其委審ヲ取消ヘキ者トス

第三十七條 外國人ニ関スル訴訟ノ場合ニ於
テ其差押人ハ已レノ領收シタル被告人所有
ノ負債權利又ハ財産ニ関シテ誓詞若クハ証
言ノ上答弁ヲ為シ且右負債權利又ハ財産ニ
関シ原告人ヨリ起シタル疑問ニ應シテ答弁
ヲ為スヘキノ請求ヲ受ル者トス

若シ又右差押人其答弁ヲ為ストテ若シ
ハ肯セサルハ裁判所ニ於テ其差押人ニ對
シ人権訴訟上ノ令狀ヲ發シテ右答弁ヲ強テ
為サシムルヲ得ヘシ
若シ差押人ニ於テ右負債、權利若クハ財産ヲ
己レノ手ニ保存シタルトテ認可シタルキハ
即チ其訴訟ノ主點ヲ答弁スヘキ責アルモノ
トス

第三十八條 凡ソ船員給料又ハ船債或ハ救助
或ハ其他物權上ノ訴訟ニ於テ若シ運賃或ハ
其他何人ノ手ニ在ラ問ス財産ヨリ生ル所得
ヲ差押或ハ之ヲ訴訟上ノ關係在ル者ト為シ
タルハ裁判所ハ訴訟關係者ノ情願ニ依リ

其領収者ヲシテ如何ナル理由ヲ以テ訴訟ノ
主點答弁ノ為メ之ヲ裁判所ニ提出セサルヤ
ヲ証明セシムルヲ得ヘシ
此場合ニ當リ若シ充分ノ理由ヲ明示セサル
ハ裁判所ハ訴訟ノ主點答弁ノ為メ之ヲ裁
判所ニ提出スヘキ旨ヲ命スルヲ得ヘキモ
ノトス
若又右命令ヲ遵奉セサルハ差押状又ハ右
命令ヲ遵奉セシムヘキ令狀ヲ發スルヲ得
ヘシ

第三十九條 凡ソ海上訴訟ノ場合ニ於テ若シ
原告人裁判所ノ命令ニ從ヒ其訴訟ニ就キ出
庭及ヒ陳述ヲ為サ、ルハ右原告人ハ懈怠

及ヒ抗命ノ罪アリト看做サレ而メ裁判所ハ
被告人ノ情願ニ依リ該訴訟ヲ廢棄スヘキ旨
ヲ言渡ヒ且ツ原告人ヲシテ其費用ヲ弁償セ
シムル者トス

第四十條 裁判所ハ被告人ノ請願及ヒ費用ヲ
弁償セシメタル上抗命及ヒ懈怠ノ罪ニ因リ
既ニ其被告人ノ害トナルヘク下シタル判決
ヲ取消シ而シテ其判決ヲ爲シタル後十日以内
何時ヲ問ス右事件ノ再審ヲ允許スルコトヲ得
ヘシ但シ此場合ニ於テ被告人ハ裁判所ノ指
定シタル命令及ヒ期約ヲ遵奉スヘキモノト
ス

第四十一條 海上訴訟ニ係ル判決ニ關係シタ

ル財産ノ公賣ハ「マルシヤール」官若クハ其屬
負若シ「マルシヤール」官其訴訟關係者ナルハ
ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ裁判所ニ於テ選任シ
タル相当ノ官吏ヲシテ之レヲ行ハシムル者
トス

前上ノ場合ニ於テ裁判所ニ於テ公賣シタル
ハ其公賣ヲ爲シタル官吏ヨリ直チニ其裁
判所ノ登記局ニ其代價ヲ納付ス可キモノト
ス而裁判所ニ於テハ法律ニ從之ヲ管理スヘ
キ者トス

第四十二條 裁判所ノ登記局ニ納付スヘキ諸
般ノ金額ハ其裁判所ニ於テ指定シタル或ル
銀行ニ其裁判所ノ名義ヲ以テ預ケ置ク者ト

ス向ノ該裁判所ノ判事及ヒ各記連署ノ上何
人ノ計算ニシテ何等ノ使用ニ供シ且右金額
ハ如何ナル訴訟ニ関シ如何ナル資本ヲ以テ
特ニ之ヲ仕拂ヘキ旨ヲ記載シタル一通若ク
ハ數通ノ証券ヲ以テスルニ非レハ前上ノ金
額ヲ引出スヲ得サルモノトス
各記ハ前上ニ引出シタル請取ノ証券ノ目錄
及ヒ謄本及ヒ其日附ヲ記載シタル正當ノ簿
冊ヲ保有ス可キ者トス

第四十三條 裁判所ノ各記局内ニ納メタル所
得金ニ關係ヲ有スル者ハ何人ヲ問ス其歎願
状及ヒ簡易法上ノ手續ニ依リ其所得金ヲ已
レニ引渡可キヲ求ヲ為スヘキ權利ヲ有スル者

トス

裁判所ハ場合ニ依リ相手方ノ關係者ニ對シ
相當ノ通知ヲ為シタル上簡易法ニ從ヒ前上
ノ事件ヲ審問スヘキ手續ヲ行ヒ而法律及ヒ
條理ニ依テ之カ判決ヲ下スヲ得ルモノト
ス

若シ又右歎願若クハ請求ヲ受理セス或ハ審
問ノ上之ヲ却下シタルハ裁判所ニ於テハ
相手方關係者ノ便益ノ為メ右歎願人ニ對シ
訴訟費用ヲ擔當スヘキノ命令ヲ下スヲ得
可キ者トス

第四十四條 裁判所ニ於テ裁判ヲ行フ為メ必
要ト思料シタル場合ニ於テハ訴訟審問中生

タル諸般ノ事件ヲ一名若クハ數名ノ委員ヲ
シテ審判ヲ為サシムルヲ得但シ此場合ニ
於テ其委員ハ訴訟關係者ヲ審問シ而シ其報
告ヲ為スヘキ任アル者トス
又石一名若クハ數名ノ委員ハ「ケヤニセリ」
廳ノ「マストル」ヲシテ通常委員審ヲ行ハシムル
時ト同一ノ諸權ヲ有シ且誓詞ヲ命シ或ハ原
被兩造及ヒ証人ヲ訊問スヘキ権力アルモノ
トス

第四十五條 州裁判所ヨリ巡迴裁判所ニ為ス
ヘキ諸般ノ上訴ハ其巡迴裁判所ノ開廳期限
内若クハ一般ノ規則ヲ以テ州裁判所ヨリ指
定シタル期限内又特別ノ訴訟ニ就テハ特別

ニ發シタル命令各ヲ以テ指定シタル期限内
ニアラザレハ之レヲ行フヲ得サルモノト
ス

第四十六條 前數条ノ規則ニ關セサル諸般ノ
訴訟ヲ受理スルニ當リテハ郡裁判所及ヒ巡
迴裁判所ハ海上訴訟ノ判決ヲ行フニ最モ適
當ト思料スヘキ方法ヲ以テ隨意ニ其裁判所
訴訴手續ヲ規定スヘキ者トス

第四十七條 總テ前數条ノ規則ハ合衆國ノ巡
迴裁判所及ヒ郡裁判所ニ於テ未ル九月一日
ヲ以テ施行スヘキ者トス
總テ前条ノ規則ハ海上訴訟上始審裁判權ヲ
有スル合衆國巡迴裁判所及ヒ郡裁判所訴訟

手續トシテ制定公布シタル旨及ヒ該裁判所ノ報告官吏ヲシテ次回ノ報告昏中ニ之ヲ掲載シ且郡裁判所及ヒ巡迴裁判所ノ訟師及ヒ法官參考ノ為ノ適當ト思料シタル片ハ尚ホ右騰本ヲ刷行セシムルハキ旨裁判所ニ於テ布令スル者ナリ

一千八百四十五年三月五日

○一千八百五十年十二月制定

以下記列スル處ノ増補規則ハ従前海上裁判ニ関スル裁判手續ヲ制定スルハキ為ノ當裁判所ニ於テ規定シタル規則ニ追加シタル者ナリ

第四十八條

人権ニ関スル諸般ノ訴訟ニ於テ

通常ノ差押状ヲ發出シ及ヒ之ヲ執行シタル

時ニ當リ行フハキ保釈ハ別ノ法律ニ於テ別

裁判所ヨリ發シタル令状ヲ以テ差押ヲ為シ

タル片ニ於テ保釈ヲ許シタル場合ニ限りマ

ルニヤル官及ヒ裁判所ニ於テ之ヲ許可スル

キモトス
又海上裁判所ヨリ發シタル令状ニ依リ行フ

ハキ負債上ノ禁錮ハ裁判所ヲ開設シタル州
ノ法律ヲ以テ前裁判所ヨリ發シタル令状ヲ
以テ負債上ノ禁錮ヲ行フハキヲ禁シタル
場合ニ於テハ之レヲ實施スルヲ得サル者
トス

第四十九條 第二十七條ノ規則ハ訴訟費用ヲ
除キ五十弗ヲ超過セサル金高ニ係ル訴訟ノ
場合ニ於テハ之ヲ適用スルコトヲ得ス但シ郡
裁判所ニ於テ裁判ヲ行フ為メ該條ニ記載シ
タル裁判手續ヲ必要ト思料シタルハ其限
ニアラス
従前規定シタル諸般ノ規則及ヒ其一部共布
令ト抵觸スヘキモノハ自今總テ廢止タルヘ
シ
總テ前上ノ規則ハ當裁判所ニ於テ次回ニ編
纂スヘキ判決録ニ掲載シ而シテ各郡記ヲシテ之
ヲ印刷セシメ且之ヲ各郡裁判所ニ送致セシ
ムヘシ

一千八百五十一年一月九日

○一千八百五十一年十二月制定

第五十條 海上訴訟上訴ノ場合ニ於テ巡迴裁
判所ノ認ムヘキ証拠ハ議院ノ決議ニ基キ該
裁判所ニ於テ撰任シタル委員若クハ一千七
百八十九年九月二十四日議院ノ決議第三
十條ヲ以テ証拠書類ヲ録取スヘキ任ヲ附與
シタル官吏ノ面前ニ於テ口述及ヒ對審ヲ以
テ録取シタル証人申立書ニ限ルモノトス但
シ前上ノ上訴ヲ受理シタル裁判所或ハ判事
中ノ一名歎願ニ依リ唇面上ノ質問及ヒ相對
質問ニ係ル申立書ヲ録取スヘキ命令ヲ發シ

タルハ此限ニラス

若シ口述ヲ以テ前上ノ申立昏ヲ録取スヘキ
場合ニ於テハ之ヲ録取スヘキ裁判官又ハ右
上訴ヲ受理シタル裁判所ノ昏記ヨリ右録取
ノ時日ニ於テ出頭シ而シテ問答ヲ為スヘキ旨
ヲ記載シタル通知昏ヲ相手方ニ送達スヘシ
但シ其相手方ハ前上ノ通知ヲ受ケタルヨリ
二十四時ヲ経過シタル後出頭スヘキモノト
スレバ若シ二十英里以外ノ地ニ在ルハ二
十里毎ニ日曜日ヲ除キ一日ノ猶豫ヲ與フヘ
キ者トス

又上訴ヲ受理シタル裁判所又ハ其判事ハ歎
願ニ依テハ前上ノ期限ヲ伸縮スルヲ得ヘ

シ

第五十一條

若シ前上記載シタル決議昏ノ主
意ニ基キ郡裁判所ノ昏記ニ於テ口述証拠ヲ
録取シ而シテ巡回裁判所ニ送付シタルハ
ハ之ヲ以テ其上訴ノ証拠ニ供スヘシ但シ前
上証人ノ申立ヲ録取スヘキ権ヲ各關係者ニ
附與シタル中ハ格別ナリトス

〇一千八百五十四年十二月制定

以下記列スル処ノ増補規則ハ海上訴訟ニ
関スル裁判手續ヲ規定スヘキ為メ従前當
裁判所ニ於テ制定シタル規則ニ追加シタ
ルモノナリ

第五十二條 被告人其答弁唇^ヲ以テ新ナル事實
ヲ申立タルハ其事實ハ原告人ニ於テ駁撃
スヘキ者ト看做シ而再答弁ハ通常特別共ニ
允許セサル者トス

然レ凡石答弁唇ヲ提出シタル後郡裁判所ニ
於テ通常若クハ特別ノ命令ヲ以テ決定シタ
ル期限内ニ原告人ハ右被告人ノ答弁唇中ニ
記載シタル事由ニ就キ拒絶シ或ハ弁明或ハ
更ラニ附加シテ其訴状ヲ更正スルヲ得
被告人モ亦前ト等シク一定ノ期限内ニ右更
正訴状ニ對シテ更ニ答弁ヲ為スヲ得ヘキ
モノトス

第五十三條 郡裁判所ノ唇記ハ上訴ヲ受理シ

タル巡回裁判所ハ送達スヘキ記録ヲ作ルヘ
シ但シ其記録ハ左ノ數件ヲ記載スヘキ者ト
ス

第一 裁判所ノ名称

第二 原被本人其他訴訟關係者ノ氏名及
及ヒ若シ變更アリタルハ上訴以前訴
訟關係者タリシ者ノ氏名

第三 若シ保釈ヲ允許シ或ハ財産ヲ差押
ヘタル片ハ其差押ノ為メ登シタル令状
及ヒ其送達ノ事保釈状及ヒ約定唇及ヒ
若シ公賣ヲ為シタル片ハ其命令状差押
状及ヒ右ニ関スル報告

第四 訴状及ヒ其訴状ニ附添シタル証拠

書類

第五 被告人ノ答弁書及ヒ其答弁書ニ附添ヒタル証拠書類

第六 原告人ニ属スル口供及ヒ訴状ニ附添ヒサル証拠書類

第七 被告人ニ属スル口供及ヒ其答弁書ニ附添ヒサル証拠書類

第八 異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ノ命令書

第九 助審人ノ報告書若シ其報告書ニ對シ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ異議ノ申立ヲニ関スル裁判所ノ命令書及其異議ノ申立書

若シ右報告書ニ對シ異議ノ申立ナキ場合ニ於テハ委審ヲ行フタル事實及ヒ助審人ノ委審ノ結果如何ヲ示タル報告書ヲ記載スヘキ者トス

第十 終審裁判

第十一 上訴ニ関スル請願及ヒ其事件ニ郡裁判所ニ提出シタル訴状但シ此後書中ニハ上訴ノ理由ハ記載セサルハシ左ニ記載スル箇条ハ之ヲ記入スルヲ要セス

第一 訴訟審問ノ延期

第二 異議ノ申立ニ関ヒス全ク訴訟審問ノ準備ニ関スル諸般ノ歎願書規則及ヒ

命令書

第三 証人申立唇ヲ録取スハキ命令唇及其通知状、逮捕状及宣誓ヲ行タル保証唇但シ郡裁判所ニ於テ差出タル証人申立唇ニ對シ異議ノ申立アリタル場合ハ格別ナリトス此場合ニ於テハ其中立唇ニ掲ケタル事項ヲ記載スハキ者トス此他ノ場合ニ於テハ証人ノ氏名ヲ記シ及ヒ質問唇及ヒ答弁唇ヲ謄写シ及ヒ委員ノ氏名及ヒ証人ノ申立ヲ為シタル場所及ヒ日附ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

又質問唇ニ對スル申立唇ヲ謄写スルニ

當リテハ其質問ニ直接ニ関係スル答弁ヲ掲載スヘシ

郡裁判所ノ書記ハ其作りタル記録謄本ノ葉數ヲ記シ而シ之ニ目錄ヲ附スヘシ

又唇記ハ右記録ノ紙尾ニ裁判所ノ鈐印ヲ鈐シ而シ其規則ニ基キ作りタル謄本ノ冒頭ニ掲ケタル事件ニ付郡裁判所ノ記録ノ抜唇タルヲ証明スハキモノトス但シ此記録ニ就テハ前上ノ外証明唇ヲ要セサルモノトス

〇一千八百五十八年十二月制定

第十二條 一千八百四十四年十二月制定海上

裁判權ニ屬スル訴訟ニ就キ當裁判所ニ於テ
制定シタル訴訟手續第十二条ノ規則ハ自今
廢止シ而シテ之ニ記載スル起ノ規則ヲ以テ之
ニ代用スヘシ

允ソ外國ノ船舶若クハ外國港ニ碇泊シタ
ル船舶ニ對シ給與修繕若クハ其他供給ヲ
為シタル者ヨリ提起スヘキ諸般ノ訴訟ニ
於テ右原告人ハ其船舶及ヒ運賃ニ對スル
片ハ物權ノ訴訟ヲ起シ船長若クハ独リ其
船主ニ對スル片ハ人權ノ訴訟ヲ起ス可ク
得ヘキ者トス
又物權ヲ除クノ外人權ニ係ル裁判手續ハ
内國船舶ニ對シ給與修繕若クハ其他ノ供

給ヲ為シタル場合ト同一ノ規則ヲ適用ス
ヘキ者トス

此命令ハ一千八百五十九年五月一日ヨリ施
行スヘキ者トス

〇一千八百六十八年十二月制定

第五十四條 最初ニ提出シタル訴狀中ニ記載
シタル事件ヨリ生シタル反對請求ニ就キ其
反對訴狀ヲ提出シタル片ハ其反對訴狀中ニ
記載シタル被告人ハ其訴狀ヲ以テ請求シタ
ル賠償金額ニ對シ相當ノ保証ヲ與フヘキ者
トス但シ相當ノ事由ニ依リ裁判所ニ於テ別
段ノ命令ヲ下シタル片ハ格別ナリトス

又原訴狀ニ関スル諸般ノ裁判手續ハ右保証ヲ差出ス迄ハ中止スヘキモノトス

合衆國最上裁判所諸規則

第一條 昏記ノ事

最上裁判所ノ昏記ハ其廳所在ノ地ニ住居シ而シテ其職務ヲ奉スヘキモノトス又該裁判所ニ在任中ハ其裁判所若クハ其他ノ裁判所ニ於テ代言人若シテ代昏人ノ職ヲ行フコトヲ得サルモノトス
昏記ハ裁判所ノ命令ヲ受ルニアラサレハ訟廷若クハ其廳ヨリ記録ノ原昏ヲ帶出スルコトヲ得サル者トス

第二條 代言人ノ事

凡ソ當裁判所ニ於テ營業スヘク允可ヲ與フヘキ代言人及ヒ代昏人ハ苟モ左ノ件々アルヲ必

要トス即チ三ケ年其附屬シタル列ノ最上裁
判所ニ於テ營業シタル丁及ヒ其品行及ヒ職業
ハ正実ニ認タルヲ得ル是ナリ
代言人及ヒ代唇人ハ各自ニ名ニ記載スル処ノ
誓詞或ハ証言ヲ行フハキモナリ
予何某ハ正直及ヒ法律ニ從ヒ此裁判所ノ
代言人及ヒ代唇人タルノ職務ヲ行ヒ且ツ
合衆國ノ憲法ヲ遵守スハキ旨茲ニ宣誓場
合ニ依テハ証言スルモノナリ
第三条 訴訟手續ノ事
最上裁判所ハ英國「キングスベンチ」廳及ヒ「クマ
ニセリ」廳ノ規則ヲ以テ即チ當廳訴訟手續ヲ
適用スヘシ

然レモ右規則ハ時ノ状況ニ從ヒ時々更改ヲ施
ス丁在ヘシ

第四条 異議申立書ノ事

自今巡迴裁判所及ヒ郡裁判所ノ判事ハ慣例法
ニ係ル審問狀陪審ニ對シ裁判所ヨリ下シタル
命令ノ全部ニ係ル故障ニ関スル異議ノ申立ハ
之ヲ許可スハカラサルモノトス
然レモ右異議ノ申立人ハ其異議ヲ唱フル命令
ニ就キ法律ノ理由ヲ明瞭ニ申立ツヘキ求メヲ
受クヘシ但モ右法律ノ理由ハ異議ノ申立唇中
ニ記載シタル者ナル中ハ裁判所ニ於テ之ヲ認
可スヘキモノトス

第五条 令狀ノ事

當裁判所ヨリ發スヘキ諸般ノ令状ハ總テ合衆
國大統領ノ名ヲ記載スヘキモノトス
若シ慣例法又ハ衡平法ニ從ヒ一列ニ對シ令状
ヲ發スヘキ時ハ其列ノ知事若クハ行政長官及
檢事ニ對シ送達スヘキ者トス
衡平法ニ從ヒ當裁判所ヨリ發スヘキ呼出状ハ
其復命期日ヨリ六日以前ニ被告人ニ送達スヘ
キモノトス若シ被告人右令状ノ送達ヲ怠ル其
復命期日ニ出頭セサル時ハ原告人ハ隨意ニ欠
席裁判ヲ受クルヲ得ヘキモノトス

第六條 歎願ノ事

自今當裁判所ニ為スヘキ諸般ノ歎願ハ總テ昏
面ヲ以テシ而シ其歎願ノ事實及ヒ目的ヲ簡短
記載スヘキ者トス

第七條 法律書庫ノ事

第一 裁判所内庭中訟師ニ於テ一片ノ願昏ヲ
提出シ而シテ法律書庫中ニ藏メタル諸般ノ書
籍ヲ使用セント欲スル時ハ其裁判所昏記ニ請
ヒ之レヲ書庫ヨリ提出スルノ許可ヲ受ルニ隨
意ナリトス(一回ニ三冊ヨリ多キヲ許サス)但シ
右携出者ハ相当ノ期限内又ハ昏記ヨリ求メ
受タル時ハ之レヲ反納スヘキ責任アルモノト
ス

又昏記ハ藏昏中貸出シタル昏籍ノ目錄ヲ作り
テ之ヲ保存シ置キ其昏籍携出者ヲ監督スルノ
任アル者トス

又前上ノ場合ニ於テ若シ其唇籍ヲ反約セサル
中ハ之ヲ携出シタル者ハ其唇籍ニ對スル責ニ
任シ且其代價ニ陪ノ金額ヲ償ノミナラス返納
期限ヲ經過スルモ尚ホ返納セサル者ハ一日ニ
付一弗ヲ約付スヘキ者トス

會議局ノ事

第二 書記ハ裁判所々藏ノ書籍及議院ヨリ裁
判所ニ廻附スヘキ命シタル法律唇ノ一本ハモ
監守シ且適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ會議局ニ陳列
スヘキ任アリ

又書記ハ裁判所判事ノ外何人ト虽モ前上ノ唇
籍ヲ携出スルヲ許サ、ル者トス

第八條 再審令狀復命ノ事

第一 再審令狀ノ送達ヲ受タル裁判所ノ唇記
ハ其管掌ニ屬シ而シテ裁判所ノ印章ヲ鈐シタル
裁判記録及其他諸般ノ唇類ノ真正ナル謄本ヲ
送付シタル上右令狀ノ復命ヲ為スヘシ

第二 訴訟審問ハ自今完全ノ記録即チ諸般ノ
書附証拠書類口供及其他當裁判所ニ於テ審問
ニ必要ナル唇類ヲ悉皆差出タル後ニアラサレ
ハ之ヲ行フヲ得サル者トス

第三 允シ巡迴裁判所若クハ巡迴裁判所ノ權
限ヲ行フヘキ郡裁判所々長判事ニ於テ上訴或
ハ再審令狀ニ從ヒ諸般ノ原唇ヲ見閱スルヲ必
要ナリト考量スル片ハ右判事ハ其見閱セント
欲スル原唇類ノ保全送致及返付ニ就キ相當ノ

命令ヲ下スルヲ得ヘシ但シ當裁判所ニ於テハ
前上ノ原昏及ヒ其他ノ昏類ノ謄本ヲ領收及ヒ
調査スヘシ

第九條 訴訟事件ヲ目錄ニ記載スル事

第一 裁判開廷期日ヨリ三十日以前ニ下レタ
ル判決ニ對シ當裁判所ハ正誤令狀又ハ上訴ヲ
提起シタル諸般ノ場合ニ於テハ原告若クハ上
訴人其訴訟事件ヲ目錄ニ記載シ而シテ開廷期日
ヨリ六日以内ニ其昏類ヲ當裁判所ノ昏記ニ差
出スヘキ義務アル者トス
若シ又裁判開廷期日以前三十日以内ニ下シタ
ル判決ニ對シ再審令狀又ハ上訴ヲ提起シタル
場合ニ於テハ原告又ハ上訴人其訴訟事件ヲ目

録ニ記載シ而シテ其昏類ヲ其開廷ヨリ三十日以
内ニ當裁判所ノ昏記ニ差出スヘキ義務アル者
トス

若シ右原告又ハ上訴人此規則ヲ遵奉セサルハ
ハ其被告人若クハ被上訴人ハ其判決ヲ下シタ
ル裁判所昏記ノ証昏ヲ差出シタル上ホ訴訟事
件ヲ目錄ニ記載シ而シテ其昏類ヲ撰件スルヲ
得ヘシ但シ右証昏ニハ訴訟ノ事由ヲ記載シ而
シテ右再審令狀又ハ上訴ハ正当ニ提起レ且認可
シタル者ナルヲ記スル者トス
又如何ナル場合ト雖モ右原告人又ハ上訴人ハ
此規則ニ從ヒ撰件シタル後ニ至リ其訴訟事件
ヲ更ニ目錄ニ記載シ而シテ其昏類ヲ差出スルヲ

得サルモノトス但シ裁判所ノ命令アルハ格別ナリトス

第二 然レモ被告又ハ被上訴人ハ其隨意ヲ以テ訴訟目録ニ記載シ且ツ其各類ヲ裁判所ノ各記ニ差出スヲ得ヘシ

又訴訟事件ヲ目録ニ記載シ而シテ其各類ノ謄本ヲ原告又ハ上訴人ニ於テ此規則中前上ニ制定記載シタル期限内ニ裁判所ノ各記ニ差出シ或ハ被告又ハ上訴人ニ於テ開庭中何時ヲ問ハス

裁判所ノ各記ニ差出シタルハ其事件ハ其開庭期ヲ以テ審判スヘキ者トス

第三 此規則中三十日ノ期限ト記載シタル諸般ノ場合ト雖モ若シ「カ」リ「フ」ルニ「ア」ラ「レ」

ゴシ「ハ」シ「ト」ニ「ニ」ウ「ノ」キ「シ」コ「シ」エ「タ」リ「及」ヒ「子」ハ「タ」リ「ノ」諸「別」ヨ「リ」起「ル」処「ノ」再「審」令「状」又「ハ」上「訴」ノ「場」合「ニ」於「テ」ハ「其」期「限」ハ「六」十「日」ニ「迄」ス「ヘ」キ「者」ト「ス」

第十條 費用ニ関スル保証ノ事
第一 如何ナル場合トモモ各記ハ訴訟ノ費納付ヲ訴訟スル為ノ充分ノ保証ヲ立テ若シ之ヲ納付セサルハ二百弗ノ罰金ヲ納ム可キ旨ヲ記載シタル証券ヲ訴訟関係者ヨリ差出サシ

メ或ハ其者宛ノ証各ニシテ前上ノ金額ニ相当スル銀行ノ預リ証各ヲ差出サシムヘシ

裁判各類印刷ノ事

第二 如何ナル場合トモモ各記ハ裁判所ノ用

ニ供スル為ノ裁判書類十五通ヲ印刷セシメ而
ノ其印刷費用ハ即チ裁判所ノ費用トシテ政府
ノ擔當ニ屬スヘキ者トス

第三 各記印刷者ニ原稿ヲ供與シ及ヒ其印刷
ヲ監督シ且ツ其印刷各ヲ校閲シ之ヲ判事報告
官吏及ヒ訴訟關係者ノ需要ニ從テ配付スヘキ
者トス

第四 然レ凡各記ハ前上ノ場合ニ於テ其原稿
ニ就テハ正当ノ費用ヲ課スル者トス

第五 如何ナル場合ト雖モ各記ハ各訴訟關係
者ニ對シ印刷各類一通宛交付スヘシ但シ訴訟
ヲ却下願下或ハ確定スルニ當リ裁判費用ヲ
擔當セシムル場合ニ於テハ前上各類ノ原稿ニ

關スル費用ハ右裁判費用ヲ納付スヘキ者ニ對

シ課スヘキ者ニシテ其額ハ其者ニ給與シタル

謄本ノ料ヲモ含蓄スヘキ者トス

第六 権限ノ不備ニ因テ訴訟ヲ却下スヘキ場

合ニ於テハ謄本費用ノ正額二分ノ一ヲ原被告

造ヲシテ擔當セシムル者トス

費用ニ關スル令狀ノ事

第七 當裁判所ノ各記ニ於テ誓各若クハ原被告
告又ハ其保証人ノ認可各ヲ以テ當裁判所ヨリ

右原被告若クハ保証人ニ賦課シタル費用計莫
各ノ謄本ヲ送達シタル充分ノ確証ヲ提出スル
ニ於テハ其費用ヲ納付セシムル為ノ右原被告
若クハ保証人ニ對シ令狀ヲ發行スヘシ

第十一條 翻譯ノ事

凡ソ再審令状若クハ上訴ニ依リ當裁判所ニ送致シタル諸般ノ昏類中外國語ヲ以テ記シタル証状昏類口供若クハ其他ノ昏類ヲ混交スル片ニ當リ下等裁判所ノ職權ヲ以テ命シ或ハ正當ナリト認メタル翻譯ヲ添ヘサル場合ニ於テハ其昏類ハ印刷ニ附セス直チニ昏記ヨリ裁判所ニ報道スヘキ者トス裁判所ニ在テハ右報告ニ依リ其翻譯ヲ下等裁判所ニ請求シ而該廳ニ之ヲ差出サシムルヲ得ヘシ

第十二條 証状ノ事

第一 如何ナル場合ト雖モ裁判所ニ於テ別段ノ証状ヲ要スル片ハ當裁判所若クハ合衆國巡

迴裁判所ヨリ發スヘキ令状ニ依リ更ニ申立昏ヲ作ルヘキ者トス

第二 凡ソ海上裁判權ニ屬スヘキ諸般ノ訴訟上當裁判所ニ於テ新ナル証状ヲ要スル片ハ當裁判所若クハ合衆國巡迴裁判所ノ判令ニ依リ該廳ヨリ發スヘキ令状ニ從ヒ該廳ニ昏ヲ作ルヘキ者トス

又前上ノ令状ハ其令状ノ發行ヲ求メタル者ニ於テ先ツ質問昏ヲ差出シ而シ其質問昏ニ通知状ヲ添ヘテ相手方又ハ其代理人或ハ代言人ニ送付シ其通知ノ日ヨリ二十日以内ニ應答昏ヲ差出スヘク申送りタル上ニアラサレハ之ヲ登ルヲ得サル者トス

然レ凡法律上公庭ニ於テ証拠口述ヲ各関係者ニ認可シタル場合ニ於テハ此規則ヲ以テ妨碍スルヲナカサルヘシ

第十三条 昏類ニ関スル異議ノ申立ノ事

當裁判所ニ於テ審理スヘキ衡平及ヒ海上裁判權ニ屬スヘキ諸件ニ於テ証拠トシテ裁判記録中ニ加タル証人申立昏証券許可状或ハ其他ノ証拠昏類ノ認可不認可ニ関シ異議ノ申立ヲ為スモ之ヲ聽スヘカラサル者トス但シ下等裁判所ニ於テ差出シタル昏類ニシテ即チ其記録中ニ加タル者ニ係リ異議ノ申立ヲ為シタル時ハ格別ナリトス

第十四条 昏類取消令状ノ事

昏類取消ノ令状ハ自今如何ナル場合ト虽モ之ヲ登スルヲ得サル者トス但シ願昏ヲ以テ之ヲ出願シ而之ヲ求ルノ事由ヲ誓昏ヲ以テ証明シタル時ハ格別ナリトス
前上令状ニ関スル願昏ハ訴訟事件ノ登記ヲ受ケタル後数日ノ間ニ差出スヘキモノトス否ラサレハ之ヲ登スルヲ許サス但シ遷延シタル理由ヲ裁判所ニ於テ認メタル時ハ格別ナリトス

第十五条 原被告中死亡ノ事

第一 當裁判所ニ於テ受理シタル再審令状若クハ上訴未決中原被告一方ノ者死去シタル時

ハ其時ノ形状ニ從ヒ其死者ニ代ルヘキ相当ノ
代人ヲ定メ而シテ其訴訟關係者ヲラシ
メ然ル後其事件ヲ審問判決スヘキモノトス
若右代人ヲシテ其訴訟關係者シラシムヘカラ
サレバハ一方ノ者ヨリ其死去ノ事ヲ裁判記録
ニ登記シ而シテ十日以内ニ代人ヲシテ訴訟關係
者ヲラシムヘキ令狀ノ發行ヲ出願スルヲ得
ヘシ若シ十日以内ニ代人ヲ設ケサルハ右令
狀出願人若シ被告人ナルハ右再審令狀若ク
ハ上訴ノ却下ヲ求ムルノ權アル者トス
若シ右令狀出願人原告人ナルハ其裁判昏類
ヲ檢閲シ果シテ誤謬アルハ之ヲ更正スヘク
求ルノ權アル者トス

右令狀ノ謄本ハ最上裁判所次回ノ開廷期ヨリ
少クモ六十日以前ニ三週間其裁判所ニ在リ地
ニ於テ發見シ而シテ合衆國ノ法律ヲ刷行スル或
新聞紙上ニ掲載スヘキ者トス

第二 若シ又原被告一方ノ者ノ死亡セシ所以
ヲ具狀シ而シテ十日以内ニ其死者ノ代人ヲ定メ
ス且一方ニ於テ右期日内ニ右代人ノ出頭ヲ促
スヘキ處分ヲ尽サレバハ其訴訟ハ廢棄スヘ
キ者トス

第十六条 原告人欠席ノ事

審問ノ召喚ヲ受ケタル原告人出庭セサルトキ
ハ被告人ニ於テ原告人ヲ呼出シ而シテ再審令
狀ヲ却下スヘキ求メラガシ或ハ其裁判昏類ヲ

検閲確定スヘキ求メヲ為スヲ得ヘキモト
ス

第十七条 被告人欠席ノ事

審問ノ召喚状ヲ受ケタル被告人出庭ヲ怠タリ
タルハ裁判所ハ原告ニ屬スル弁論ヲ聽キ而
テ其事件ノ正理ニ從カヒ判決ヲ下スヘキモノ
トス

第十八条 原被告両造共欠席ノ事

訴訟目錄ノ順序ニ從ヒ正當ノ呼出ヲ受ケタル
場合ニ於テ原被告共ニ出庭セサルハ其訴訟
費用ヲ原告人ニ負擔セシメ其事件ヲ却下スヘ
キ者トス

第十九条 両期ニ跨ル原被告ノ事

訴訟事件ノ弁論兩期ニ經續シ第二期ニ於テ呼
出ニ應シテ其弁論ヲ行ハサルハ原告人ヲシ
テ其訴訟費用ヲ擔當セシメ其事件ヲ却下スヘ
キモノトス但シ辯論ノ遷延ニ就キ充分ノ理由
ヲ証明スルハ格別ナリトス

才二十条 印刷并論各ノ事

才一 上訴又ハ再審令状或ハ其他ノ方法ニ依
 リ当裁判所ニ訴訟ヲ提起スルキニ当リ原被両
 造ノ代言人其開廷期ヨリ六十日以内ニ并論各
 ヲ差出サント欲スルキハ訴訟目錄ノ番號ニ関
 セス其印刷各ヲ領收スヘシ但シ此場合ニ於テ
 ハ裁判所々屬ノ代言人代書人署名シタル并論
 各ノ謄本二十通ヲ差出カシムルモノトス其内
 十通ハ裁判所ニ通ハ報告官吏三通ハ昏記之ヲ
 預リ殘餘ハ代言人ノ使用ニ供スルモノトス
 才ニ 訴訟目錄ノ順序ニ從ヒ正当ニ呼出ヲ受
 ケ而シテ原被一方若クハ双方ヨリ印刷并論各ヲ
 差出シタルキハ其事件ハ恰モ代言人ヲシテ出

延セシメタル等々処理セラルヘキモノト
ス

才三 訴訟目録ノ順序ニ從テ訴訟ノ審問ヲ遂
ケ而シ原被一方ニ於テ其便益ノ為メ口述ヲ以
テ弁論シタル中ハ別段印刷弁論ヲ要セサル
モノトス但シ口述弁論ヲ始ムル已前右印刷
ヲ差出シ而シ裁判所ハ他ノ一方ヨリ差出シタ
ル弁論各ニ依リ其訴訟ヲ審察判決スル中ハ格
別ナリトス

才二十一 代理人ハ二名ニ限ル事

才一 凡ソ原被告一方ノ者ハ一事件ニ就キ二
名ノ代理人ヲ使用シ弁論セシムヘキモノトス
代理人ノ弁論ハ二時間ニ限ル事

才二 凡ソ代理人ハ弁論ヲ始ムル已前裁判所
ノ特別認可ヲ得ルニアラサレハ二時間以上訴
訟弁論ヲ為スヲ許サレモトス

始末各ノ事

才三 凡ソ代理人ハ審問ヲ受ケント欲スル事
項及ヒ其事項ニ関スル証拠ヲ掲ケタル印刷始
末各若クハ摘撮各ヲ先ツ差出シ且ツ別段其弁
論ニ関スル各類又ハ事柄ナキ時ニアラサレハ
審問ヲ受クルヲ得サルモノトス

才四 前上ノ各面ハ当裁判所々属ノ代理人署
名スヘキモノトス

才五 原被告中ノ一方前上ノ各面ヲ差出ス
ヲ怠リシ中ハ其者ハ審問ヲ受ルヲ得サルモ

ノトス而ソ其事件ハ右各面ヲ差出シタル者ノ
差出シタル弁論各ニ依テ審問セラル、モノト
ス
才六 此規則ヲ以テ要求セラルヘキ摘撮各始
末各及ヒ証拠各類ハ原告若クハ上訴人ナルキ
ハ其弁論各ノ呼出ヲ受ル六日前又被告人若ク
ハ被上訴人ナルキハ三日前ニ之ヲ各記ニ差出
スヘキモノトス
才七 原被告中一方ノ代言人出庭セズ且ツ印
刷始末各若クハ弁論各ヲ差出サ、ルキハ其相
手方ノ代言人ノミ審問ヲ受クヘシ然レモ若シ
其始末各若クハ弁論各ヲ差出シタル場合ニ於
テハ其相手方ハ二名ノ代言人ヲ用ヒテ其審問

ヲ受クヘキ権アルモノトス

才二十二条 弁論ノ命令ノ事

当裁判所ニ於ケル原告若クハ上訴人ハ訴訟事
件ノ審問ヲ始メ及ヒ止ルノ権アルモノトス
然レモ若シ及对上訴ヲ起シタルキハ原告若ク
ハ上訴人ハ本案事件ト共ニ其弁論ヲ行ヒ而ソ
下等裁判所ニ於ケル原告ハ其弁論ヲ始メ及ヒ
止ムルノ権アルモノトス

才二十三条 利息ノ事

才一 当裁判所ニ再審上訴ヲ起シタル場合ニ
於テ下等裁判所ニ於テ下シタル判決ヲ認定シ
タルキハ其判決金額ノ利息ハ下等裁判所ノ裁
判言渡シノ日ヨリ起算ス而ソ其割合ハ之ヲ還

納スルマテ恰モ州裁判所ニ於テ同一ノ判決ヲ
下シタル時ニ於テ申付ルト同一ナルヘシ
才ニ 下等裁判所ニ於テ下シタル判決ニ関ス
ル処分ノ猶豫ヲ乞フヘキ上訴ヲ起シタル場合
ニ於テ全ク其猶豫ノミヲ請求シタルキハ其損
害ノ賠償ハ裁判ノ金額ニ從ヒ年一割ノ割合ヲ
以テ定メ而シテ下等裁判所ノ裁判言渡シノ日ヨ
リ之ヲ償還スルマテ計算スヘキモノトス
才三 前上ノ規則ハ「チャンセリ」廳ニ於テ下
シタル金額毎償ノ判決モ亦適用スヘキモノト
ス但シ当裁判所ニ於テ別段ノ命令ヲ下ス中ハ
格別ナリトス(海上事件ニ就テハ裁判所ノ特別
命令アルニアラサレハ利息ヲ命スルトテ得ス)

才二十四条 訴訟費用ノ事

才一 凡ソ裁判権限ノ不全ニ依テ訴訟ヲ却下
スル場合ヲ除クノ外当裁判所ニ於テ訴訟ヲ却
下スル場合ニ於テハ被告若クハ被上訴人ハ其
費用ヲ求ムルトテ得ヘシ但シ原被両造ニ於テ
別段ノ約定ヲ結ビタルキハ格別ナリトス
才ニ 當裁判所ニ於テ裁判ヲ認可スル場合ニ
於テハ被告若クハ被上訴人ヲシテ其費用ヲ納
付セシムルモノトス但シ裁判所ヨリ別段ノ命
令ヲ下ス中ハ格別ナリトス
才三 当裁判所ニ於テ裁判ヲ更正スル場合ニ
於テハ原告若クハ上訴人ヲシテ其費用ヲ納付
セシムルモノトス但シ裁判所ヨリ別段ノ命令

ヲ下スハ格別ナリトス

下等裁判所ヨリ送付スヘキ裁判記録ノ抜卷ニ

関スル費用モ亦前上ノ費用ノ一部分トス

オ四 前教条ニ記列スル規則ハ合衆国現ニ原

被告ト为ルヘキ場合ニ於テハ適用セサルモノ

トス但シ合衆国現ニ原被告タル場合ニ於テハ

当裁判所ハ其費用ヲ徴收スルヲ得サルモノ

トス

オ五 当裁判所ニ於テ諸般ノ訴訟ヲ却下スル

場合ニ於テ下等裁判所ニ付シ却下令状又ハ其

他ノ令状ヲ發スヘキ職務ハ即チ昏記ノ擔任ス

ル所トス但シ右命令ハ当裁判所ノ処分ヲ下等

裁判所ニ通知シ且ツ下等裁判所ヲシテ法律及

ヒ條理ニ從ヒ相当ノ処分ヲ為サシムル為メ發

スヘキモノトス

オ二十五条 裁判所意見ノ事

オ一 凡ソ裁判所ニ於テ交付スヘキ諸般ノ意

見昏ハ之ヲ交付シタル後直チニ之ヲ登記セシ

ムル為メ昏記ニ送付スヘキモノトス

又昏記ハ前上ノ場合ニ於テ直チニ之ヲ登記シ

任アルモノトス

才ニ 凡ソ裁判開廷期限中現ニ其裁判所ニ於テ下シタル諸般ノ意見ハ悉ク之ヲ記録ニ留メ而シテ遲滞ナリ其報告昏ヲ出版スヘキモノトス才三 報告官吏ニ送致シタル裁判所ノ意見昏ノ原亦ハ其開廷中ノ報告昏出版ノ上ハ其裁判所ノ昏記ニ於テ保存スヘキモノトス

才二十六条 訴訟呼出ノ事

裁判所ハ開廷ヨリ才二日ヲ以テ訴訟目錄ニ載セタル順序ニ従ヒ弁論ノ呼出ニ着手シ再後順次其呼出ノ手續ヲ行フモノトス
前上呼出ヲ受ケタル件ニ當リ原被告若クハ其一方ノ者其事件ノ準備ヲ整ヘタル件ハ乃チ其

審問ヲ受クヘシ若シ又原被告未ク其弁論ノ準備ヲ整ヘサル件ハ其事件ハ其目錄ノ末尾ニ讓ルヘシ但シ至當ナル理由ヲ裁判所ニ証明シタル件ハ格別ナリトス

開廷中毎日呼出スヘキ件數ハ十件ヲ限リトス但シ前日ヨリ弁論ヲ経続スルモノヲモ兼入ス凡ソ裁判所ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ノ外訴訟目錄ノ順序ニ掲ケサル事件ヲ審問シ或ハ特定ノ日ヲ以テ之ヲ審理スルヲ得サルモノトス

又訴訟目錄ノ順序ニ従ヒ既ニ呼出シ又未ク呼出ワ、ル事件ニシテ到底其開廷期限内ニ之レカ審理ヲ遂ケ得ヘカラサル件ハ次回ノ開廷期

限迄之ヲ延期スヘキモノトス

第二十七条 歎願日ノ事

裁判所ハ(特別ノ事件ニシテ裁判所ヨリ別段ノ命令ヲ下ス場合ヲ除ク)日曜日ヲ以テ弁論ヲ聽クヲ得サルモノトス然レモ此他ノ事務ハ日曜日トモモモ処理スルヲ得ヘシ又毎週金曜日ハ裁判所ノ規則ヲ以テ別段ノ定メナキニ於テハ訴訟目録ニ記入ノ願ヲ為スヘキ定日トス但シ裁判所ニ於テ訴訟目録ニ掲ケタル事件ノ審問ヲ登記セサル以前前上ノ願ヲ為シタル場合ニ限レリトス

第二十八条 裁判延期ノ事

凡ソ裁判所ニ於テ裁判ノ延期ヲ為サントスル中ハ其定日ヨリ少クモ十日以前ニ其日限ヲ報知シ且ツ其日限前三日以内ニ弁論唇若クハ印刷始末唇ヲ受取ルヲ得サルモノトス

第二十九条 閉庭中訴訟却下ノ事

当裁判所ニ於テ未決中ノ原被告人又ハ上訴人被上訴人ハ裁判所閉庭中何時ヲ問ハス訴訟唇類中ニ掲ケタル自己ノ代言人ノ署名シ且ツ其訴訟ノ却下ヲ請求スル所以ヲ記載シタル契約唇ヲ唇記ニ差出シ而シテ其唇記ニ對シ納付スヘキ謝金ヲモ亦納付シタル中ハ唇記ハ其事件ヲ却下シタル所以ヲ登記シ而シテ其領收シタル契約唇ノ謄本ヲ訴訟関係者ニ交付スルノ任アルモノトス但シ此場合ニ在テハ裁判所ヨリ命令

ヲ得ルニアラサレハ却下令状其他ノ令状ヲ發スルヲ得サルモノトス

才三十一条 訴訟呼出ノ事

九ソ犯罪名簿上ノ事件ハ後ニ定メタル場合ノ外總テ訴訟目錄ニ記入シタル順序ニ從ヒ正當ノ呼出ヲ爲シタル上之ヲ審問スヘキモノトス
九ソ刑事ノ訴訟ハ原被ノ情願ニ依リ裁判所ノ允可ヲ經テ之ヲ処理スヘキモノトス

九ソ合衆國ニ関シタル租税事件ニシテ即チ公元ノ利益ニ係ル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所ノ允可ヲ經テ之ヲ審理スヘキモノトス

同一ノ訴訟中二箇以上ノ事件ヲ含蓄スル中ハ

裁判所ノ允可ヲ經テ之ヲ併セテ審問スヘキモノトス但シ此場合ニ於テハ一事件トシテ之レカ弁論ヲ爲サシムヘキモノトス(才二十六条見合)

才三十一条 出庭及ヒ歎願通知ノ事

九ソ上訴ニ依テ其昏類ノ謄本ヲ差出シタル上ハ原告即チ上訴人ノ代理人ハ其出庭登記ヲ受クヘキモノトス且ツ裁判所ノ特別命令昏アル場合ノ外其訴訟却下ノ歎願ニ関スル審問ヲ遂クルヲ得サルモノトス但シ豫メ相手方若クハ其代理人ニ通知状ヲ送付シタル中ハ格別ナリトス

才三十二条 中止状ノ事

巡回裁判所ノ中止証昏ハ原告若クハ上訴人ニ
於テ若シ充分弁論ヲ遂ゲ能ハサルハ其損害
ノ賠償及ヒ訴訟費用ヲ擔當スヘキ処分ヲ為ス
ヘキ正当充分ナル保証ヲ具ヘサルヘカラス
若シ別段抵當ヲ附セサル金額ノ返還ヲ求メ
ル事件ノ判決ヲ下シタル場合ニ於テハ前上訴
謂賠償ハ其裁判ノ金額ノ全部即チ遷延ニ関ス
ル正当ノ償金及ヒ訴訟費用及ヒ利息ヲ指スモ
ノトス
然レハ物權上ノ訴訟及ヒ差押品ノ返還及ヒ昏
入質等ノ場合ノ如キ其訴訟事件全ク物品ニ係
ル中若クハ捕獲又ハ取押ノ場合ノ如キ海上裁
判所ノ令状ニ從ヒ「マルシヤール」官ニ於テ物品

ヲ管守スル如キ場合或ハ其所得或ハ其價額ニ
相当スル証昏ヲ裁判所ニ於テ管理スル場合ニ
於テ所謂賠償トハ其物品ノ使用或ハ抑留ニ就
キ求メタル金額及ヒ訴訟費用及ヒ遷延ニ関ス
ル償金及ヒ上訴費用及ヒ其利息ノ額ニ相当ス
ヘキ金額ヲ云フモノナリ

才三十三条 再審令状ノ事

当裁判所ノ閑庭期限ヨリ三十日以前ニ終審ノ
裁判ヲ為シタル事件ニ係ル再審令状及ヒ召喚
状ハ右閑庭ノ初日ヲ以テ復命シ且ツ其日以前
ニ送達スヘキモノトス
然レハ若シ又三十日以内ニ為シタル事件ニ係
ル中ハ其閑庭期限才三ノ月曜日ヲ以テ復命シ

且ツ其日以前ニ送達スルキモノトス

司法省記録文庫

保
第八百八十九號

東京海上汽船

路規規則中

巡回救救部
郡救救部
規規部

○新約克南部地方巡回裁判所諸規則
一千八百三十八年四月二十八日制定同年
八月第一月曜日ヨリ実施

○上訴ニ関スル規則

第百十六條 允リ上訴ハ終審ノ判決ヲ經タル
上ニアラサレハ起ラサルモノトス

第百十七條 允リ下等裁判所ニ再訴セスシテ
執行ヲ為スヘキ判決ヲ以テ終審ノモノト着
做スヘシ

第百十八條 允リ海上裁判權ニ屬スル訴訟上
郡裁判所ニ於テ下シタル判決ニ對シ巡回裁
判所ニ訴フヘキ上訴ハ總テ訴訟關係者或ハ
其代言人ノ記名シタル各面ヲ以テシ而ソ之

ヲ郡裁判所ノ昏記ニ差出スヘキモノトス
又前上ノ昏類ハ之ヲ昏記ニ差出シタルヨリ
二十日以内若クハ之ヲ差出シタル後始メテ
開クヘキ裁判期ノ才一日ヲ以テ緊要昏類ト
俱ニ巡回裁判所ニ送致スヘキモノトス但シ
裁判官猶豫ノ期限ヲ共ヘタル中ハ格別ナリ
トス

第百十九条 凡ソ上訴状ハ郡裁判所ニ差出シ
タル訴状中ニ記載シタル請求若クハ郡裁判
所ニ於テ訴訟関係者タリシ者ノ氏名及ヒ判
決ノ次才ト之ヲ行フタル時日トヲ簡短ニ記
載スヘキモノトス
若シ上訴ヲ為スニ當リ新タナル申立ヲ為シ

或ハ異様ナル請求ヲ為シ或ハ新タナル判決
ヲ求メント欲スル中ハ其旨ヲモ亦記載マヘ
シ而シテ上訴人ハ如此上訴状ニ依テ已レノ便
益ト为ルヘキ判決ヲ受ク可キモノトス
第百二十条 上訴状ノ謄本ハ前上ト同時ニ下
等裁判所ニ於テ被告人ノ代言人ト为リタル
者ニ向テ送達スヘシ而シテ右謄本ノ送達ニ係
ル誓昏ハ上訴状ト共ニ整頓スヘキモノトス
此場合ニ於テ被上訴人ヲ当裁判所ニ出頭セ
シムヘキ令状及ヒ余令ハ之ヲ発行スルヲ要
セス

第百二十一条 上訴ヲ為シタル場合ニ於テ若
シ新タナル申立ヲ為サス或ハ異様ナル請求

ヲ為サス或ハ事實ニ依テ新タナル判決ヲ求
メサルハ郡裁判所ニ差出シタル并論各証
拠各類及ヒ該廳ノ判決各及ヒ其訴訟ニ関ス
ル保証各ト裁判所ノ各記ニ納付スヘキ納金
各ヲ保セテ上訴状ト共ニ当裁判所ニ差出ス
ヘキモノトス
然レモ如何ナル訴訟ヲ問ハス訴訟關係者双
方ノ間ニ一致シタル事實ノ申明若クハ郡裁
判所判事ノ決定シタル事實ノ申明及ヒ郡裁
判所ノ訴訟手續ニ從ヒ差出シタル事實ノ申
明ハ總テ証拠ノ部分トシテ之ヲ証明スヘキ
モノトス

第百二十二條 若シ事實ニ依テ新タナル判決

ノミヲ求メント欲スルハ訴訟關係者ノ并
論各ト其訴訟ニ関スル保証各及ヒ裁判所ノ
各記ニ納付スヘキ納金各及ヒ其訴訟ニ関ス
ル証明各及ヒ証人申立各ヲ上訴状ト共ニ當
裁判所ニ差出スヘキモノトス
然レモ証拠各類ハ上訴人ヨリ特別ニ請求ヲ
受ケ或ハ当裁判所ヨリ下命スルニアラサレ
ハ之ヲ差出スヲ要セス
第百二十三條 若シ又新タナル申立ヲ為シ或
ハ新タナル請求ヲ為サント欲スルハ上訴
状ニ関スル復命各面ニ訴状ニ依テ發シタル
令状及ヒ其復命各ノ謄本及ヒ其訴訟ニ就キ
裁判所ノ各記ニ納付スヘキ納金各証人申立

各及ヒ証明各及ヒ其訴訟ニ関スル保証各ノ
謄本ノミヲ記入スヘキモノトス

第百二十四条 上訴人ハ各記ニ於テ復命各ヲ
完了シタル後四日以内ニ上訴状ト俱ニ復命
スヘキ求メテ受ケタル各類ト上訴ノ通知状
及ヒ其上訴状ノ謄本ノ送達ニ係ル誓各ヲ併
セテ当裁判所ニ差出スヘシ否ラサレハ其上
訴ハ受理シタルモノトセズ即チ棄却シタル
モノト着做サルヘシ

前上ノ場合ニ於テハ原裁判所ニ其旨ヲ通知
シ而シテ原裁判ノ執行ヲ為スヘシ

第百二十五条 當裁判所ニ於テ上訴状及ヒ上
訴状ト俱ニ復命ヲ為スヘキ各類ヲ領收シタ

ル時ヲ以テ始メテ其訴訟事件ヲ受理シタル
モノト着做サル可シ

第百二十六条 上訴状及ヒ各類及ヒ被上訴人
ニ向ケテ送達シタル通知状ノ送達ニ係ル誓各ヲ
差出シタル上開廳シタル日ヨリ二日以内ニ
被上訴人其出席ノ登記ヲ得サルハ上訴人
ハ其事件ニ付一方審問ヲ受ケ而シテ其請求ス
ル処ノ判決ヲ受ルヲ得ヘシ

第百二十七条 上訴ニ於テハ各弁各或ハ其他
ノ弁論各ヲ受授スルヲ要セズ

各訴訟関係者ハ上訴ヲ為シタル時現ニ開廳
中ナルハ何時ヲ以テ訴訟審問ヲ開キ或ハ
若シ開廳中上訴ヲ起シタルハ次回ノ裁判期

内ニ於テ之ヲ審問スヘキノ通知ヲ為スルヲ得可シ

第百二十八条 下等裁判所ニ於ケル訴訟手續ヲ停止スヘキ停止状ハ上訴人ノ歎願ニ依リ苟モ之ヲ發スヘキ事由アルニアラサレハ之ヲ發行セサルモノトス但シ如此請求ヲ為スルハ豫メ其通知ヲ與フヘキモノトス

第百二十九条 「マングミュス」^{令状}ハ前条ト同一ノ方法ニ依リ各記若クハ下等裁判所ニ於テ上訴ノ復命ヲ不正ニ遷延シタル場合ニ當リ之ヲ速ニ為サシムル為メ求ムヘキモノトス
第百三十条 若シ被上訴人ニ於テ上訴ニ関シテ新タナル申立ヲ為サス或ハ証拠ヲ提供セ

サル理由或ハ新タナル請求ノ起リタルノ理由ヲ証明セントスルルハ四日以前ニ其通知ヲ為シ而シテ其証明ノ事由ヲ記載シタル誓昏ノ謄本ヲ送達セサルヘカラス

又前上所謂事由ハ閑廳ヨリ二日内ニ申立ヘキモノトス否ラサレハ上訴ハ順序ニ從ヒ判決セラレルヘシ

第百三十一条 当裁判所ニ於テ新タナル申立ヲ為シ或ハ異様ノ請求ヲ為スヘキルハ郡裁判所ニ於ケル原告人ハ十日以内ニ宣誓訴状ヲ当裁判所ニ差出スヘシ而シテ相手方ハ之ニ對シ二十日以内ニ宣誓答弁書ヲ差出スヘキモノトス但シ当裁判所判事ノ命令ニ依リ別

假猶豫ノ期限ヲ與ヘタルキハ格別ナリトス
若シ前上ノ手續ヲ怠リタルキハ裁判所ニ於
テ歎願ニ從ヒ其懈怠者ニ對シ其時ノ形狀ニ
從ヒ其訴訟事件ノ最終ノ決定ヲ為スヘキノ
命令ヲ下スヘシ

才百三十二条 当裁判所ニ於テ新タニ生スル
ト郡裁判所ヲ經由シタルモノトヲ問ハス總
テ当裁判所ニ於テ訴訟及ヒ答弁各ヲ領収シ
タル上ハ他ノ事件ト等シク其訴訟 審問ヲ
開クヘキモノトス

然レモ郡裁判所ニ差出シタル質問年各或
ハ証拠各類ハ總テ当裁判所ニ於テモ亦之ヲ
収用スヘキモノトス

第百三十三条 凡ソ被上訴人ハ郡裁判所ニ於
テ下シタル判決ヲ当裁判所或ハ最上裁判所
ノ判決ヲ以テ有效ナラシムヘキ求メヲ為ス
トヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ右ニ裁判所
ノ判決ヲ遵奉スヘキ保証各ヲ差出スヘキモ
ノトス

此場合ニ於テ当裁判所及ヒ最上裁判所ニ上
訴ヲ為シタル為メ生シタル諸般ノ損害及ヒ
諸費用ノ弁償ニ就キ当裁判所ニ於テ指定シ
タル方法ニ從ヒ上訴人本人及ヒ相当ノ証人
ヨリ保証各ヲ以テ其金額ニ相当スル保証ヲ
與ヘタル中ハ前上ノ命令ヲ下スルヲ得ス
才百三十四条 若シ当裁判所ニ於テ下シタル

判決ニ對シ上訴ヲ起シタル場合ニ於テハ其上訴ヲ受理シタル裁判所ノ判決ヲ言渡シ或ハ之ヲ整頓シタル日ヨリ十日ヲ徑過スルニアラサレハ其終審ノ判決ヲ執行スルヲ得サルモノトス

才百三十五條 当裁判所ニ於テ下シタル判決ニ對シ上訴ヲ起スヘキ時ハ上訴人ハ別段判事ヨリ猶豫ノ期限ヲ許可シタル場合ノ外右判決ノ言渡及ヒ整頓ヲ為シタル日ヨリ四日以内ニ上訴ヲ為シ而シテ當然裁判所ニ提出スヘキ昏面上ノ証拠ニアラスシテ全ク審問ニ関スル申立昏ヲ相手方ニ向ケ送致スヘキモノトス

右申立昏ノ送達ヲ受ケタル相手方ハ其送達ノ後四日以内ニ其申立昏ニ付更正ヲ求メ若シ其求メヲ為サ、ル時ハ其申立昏ハ確認シタルモノト看做サルヘシ若シ又之ヲ確認セサル時ハ其日ヨリ四日以内ニ上訴人ヨリ判事ニ之ヲ差出シ其判決ヲ仰クヘキモノトス

又前上申立昏ノ判決ヲ為シタル時ハ昏記之ヲ淨寫シ而シテ証拠昏類ト共ニ裁判ヲ下スノ証拠ニ供シ且ツ其他当裁判所ニ於テ処分ヲ為スノ助ケニ供スヘキ效カアリトス

才百三十六條 前數條ニ掲ケタル當裁判所ノ規則中公然記載セサル海上裁判權ニ屬スル民事訴訟ノ場合ニ於テハ當時現ニ実施セラ

レ而シテ此規則ヲ制定スル前後ニ於テ規定シタル新約克南部地方郡裁判所ノ訴訟規則ヲ(前)數上ノ規則ト抵触セサル以上ハ適用シ即チ之ヲ目シテ当裁判所ノ訴訟規則ト同視セラルヘシ

〇一千八百四十五年九月二日制定

当裁判所ニ於テハ上訴ニ関スル一切ノ昏類ハ之ヲ朗讀スルヲ要セズ但シ下等裁判所ヨリ正当ニ送達シ来リ当裁判所ニ於テ受領シタル昏類或ハ当裁判所ニ於テ受領シタル昏類ノ原本若クハ当裁判所昏記ニ於テ正当ニ保証シタル右昏類ノ謄本ナル中ハ此限ニアラス

〇一千八百五十年四月一日制定

凡ソ物權若クハ人權ノ訴訟上及令訴訟關係者ノ死去、結婚或ハ其他ノ無能力或ハ訴訟ノ利益ヲ讓與シタルト虽モ猶ホ其訴訟ヲ繼續スル者アル中ハ次シテ消滅セサルモノトス

訴訟關係者中ノ一名死去若クハ結婚スルカ或ハ其他無能力者トナリタル場合ニ於テハ裁判所ハ請求ニ依リ訴訟關係者ニ向テ通常ノ報告ヲ為シ或ハ其他裁判所ヨリ指示シタル報告ヲ為シタル上代人ヲシテ

其訴訟ヲ継続セシメ或ハ代人ニ對シテ其
訴訟ヲ継続スヘキノ許可ヲ與フルヲ得
ヘシ

〇一千八百五十一年二月二十日制定
当裁判所ノ各記及ヒ「ウヨルク」南部地方
ニ設置シタル合衆国郡裁判所各記及ヒ其
各記長若クハ其属官(各記長若クハ属官ハ
之ヲ選舉シタル各記ノ各面ヲ以テ命任シ
而シテ其餘任ハ当巡回裁判所ノ巡回判事或
ハ若シ判事其地方ニアラサルキハ郡裁判
所ノ判事ノ認可ヲ得ヘキモノトス又其餘
任各ハ判事裏各シタル認可各ト俱ニ之ヲ

各記局ニ於テ保存スヘキモノトス)及ヒ当裁
判所ニ於テ命シタル「チャンセリ」廳ノ常
置「マストル」官及ヒ「キングス」州及ヒ「ウヨ
ル」ノ市街及ヒ邑ヲ除キ「ウヨルク」南部
地方中各邑ノ判事ニシテ(前上ニ述ヘタル
諸官吏ハ当裁判所若クハ「ウヨルク」州ニ
設置シタル最上裁判所ノ代言人ノ資格ヲ
有スルキハ)此布告ヲ制定スル時在任中ノ
者若クハ此後選任セララルヘキ者トヲ問ハ
ス其在任中ハ当裁判所ノ委員且ツ該官吏
ハ其在任中合衆国裁判所ニ於テ受理スヘ
キ民事訴訟ニ於テ宣誓ヲ認ムヘキ委員ニ
任シ而シテ一千七百九十三年三月二日認可

合衆国裁判所設置條例追加及ヒ一千八百
十二年二月二十日認可合衆国裁判所ニ属
スル民事訴訟ニ関スル宣誓及ヒ保釋認可
條例及ヒ一千八百十七年三月一日認可合
衆国裁判所ニ属スル民事訴訟ニ関スル宣
誓及ヒ保釋認可條例追加及ヒ一千七百八
十九年九月二十四日決議一千八百四十二
年八月二十三日認可合衆国裁判所設置条
例増補及ヒ一千八百五十年九月一日認可
一千八百九十三年二月十二日認可裁判官
及ヒ「マスタル」官道職條例改正追加ト称ス
ル議院ノ決議法ヲ以テ規定シタル諸般ノ
権力及ヒ職務或ハ此他委員及ヒ其職務権

力ニ関スル議院ノ決議法ヲ以テ規定シタ
ル諸件ヲ行フヘキモノトセリ

〇一千八百五十一年十月裁判所布達

代言人ナル「サミユエル」ブラツク「ラルド」
氏ヲ以テ合衆国第二回ノ巡回裁判所ニ於
テ合衆国巡回裁判所判事ノ下シタル判決
報告者ニ選任シタルヲ以テ爾来海上裁判
ニ関スル再審問、弁駁、再審令状、上訴及ヒ弁
論各ヲ以テ提起スル衡平法ニ係ル訴訟ニ
関係シタル該巡回裁判所々属ノ代言代
人ハ其判決各ノ謄本ト俱ニ下等裁判所及
ヒ当裁判所ニ於テ差出シタル諸般ノ証拠

ヲ會審シタル年取各再審願各上訴却下状
及ヒ年論ノ初ノ或ハ其以前ニ於テ其時ノ
形状ニ從ヒ衡平方ニ基キ差出シタル諸般
ノ年論各及ヒ証拠各類ノ謄本ヲ前上ノ報
告者ニ回布スヘキヲ布令スルモノナリ
一千八百五十年十月二十二日巡回裁判所
規則參照

〇一千八百五十三年一月二十七日制定
一千八百五十一年一月二十日附ノ命令或
ハ規則ニ基キ当裁判所ニ於テ選任シタル
委員ハ總テ合元国立其他ノ裁判所ニ於テ
受理スヘキ民事訴訟ニ係ル諸般ノ宣誓ヲ

認ムヘキノ任ヲ有スルト雖モ裁判委員ノ
職務ヲモ亦行フヘキノ權アリ且一千八百
四十八年八月十二日認可犯人ノ逮捕及ヒ
交付ニ付内外国政府ノ條約実行條例ト名
稱スル議院決議法ノ趣旨ニ基キ委員ノ職
務ヲ行フヘキ任アルモノトス

〇一千八百五十九年九月二十一日制定
当裁判所ニ於テ受理シタル訴訟上当裁判
所ニ納付スヘキ總テノ金額ハ当裁判所ノ
書記ト合元国信任會社トノ間ニ結締シ而
ノ当裁判所ノ認可ヲ徑タル期約ニ從ヒ該
書記ヨリ該會社ニ預クヘキモノトス

〇一千八百六十八年十一月十日制定
凡ソコトスル官審問吏、委審人及ヒ委實ニ
於テ口供ヲ録取スヘキ場合ニ當リ若シ問
答ヲ以テ其口供ヲ記載シタルハ其訊問
ノ初メヨリ終リマテ順次各証人ニ質シタ
ル問題ヲ叙列スヘキモノトス

〇

郡裁判所ヨリ起リタル上訴ノ場合ニ於テ
該裁判所ヨリ當裁判所ニ送致シタル書類
ニ從ヒ之ヲ審問スル場合ニ當リ右各類中
郡裁判所ノ公廷ニ於テ口頭ヲ以テ與ヘタ

ル証拠筆記ハ當裁判所ニ於テ之ヲ証拠ト
認メサルモノトス但シ其筆記面恰モ慣例
法ニ係ル訴訟上賠償審吟味ノ時ト同一ノ方
法ヲ以テ之ヲ筆記シタルモノト省做スヲ
得ヘキハ格別ナリトス

○新約克南部地方郡裁判所諸規則

一千八百三十八年十一月六日制定

才一條 凡ソ訴状若クハ歎願各ハ重複或ハ贅
文ヲ掲ケス請求ノ因テ起ル処ノ事實ヲ明瞭
ニ記載スヘキモトス(最上裁判所ニ於テ制
定シタル海上裁判規則才二十二条及ヒ才二
十三条參着)

才二条 凡ソ令状ハ并論各若クハ申立各ヲ当
然提起スヘキノ先可ヲ受ケ而ソ之ヲ提出シ
タル上ニアラサレハ之ヲ棄スルヲ得サル
モノトス(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上

裁判規則才一条參着)

才三条 凡ソ人權若クハ物權ニ関スル差押状

ノ発行ヲ請求シ或ハ相手方ニ對シ宣誓答弁
ヲ求メタル訴状(合衆國ノ便益ニ関スル訴状
ヲ除ク)ハ誓文若クハ証言ヲ以テ之ヲ証スヘ
キモノトス(同上才八十七條參看)

才四條 訴訟關係者自身ノ誓文若クハ証言ヲ
必要トスル諸般ノ場合ニ於テ其關係者ノ名
義ヲ以テ提出スヘキ弁論昏ニハ必ス之ヲ掲
クヘキトテ必要トス但シ後條ニ於テ特ニ規
定シタル場合又ハ判事ニ於テ特別ニ下命シ
タル片ハ格別ナリトス(同上才九十三條參看)
才五條 差押状ノ発行ヲ求メス單ニ引致状若
クハ呼出状ノ発行ヲ求メタル訴状或ハ歎願
昏ハ誓文ヲ掲クルニ及ハス

才六條 凡リ裁判所ニ提出スヘキ訴状及ヒ其
他ノ昏類ハ文字ノ挿入削除ヲ加ヘテ明瞭ニ
淨寫スヘキモノトス

若シ此規則ニ違背シテ諸般ノ昏類ヲ提出シ
タル片ハ昏記之ヲ受領スル以前ニ之ヲ認可
シタル判事ノ裏昏ヲ要スヘシ

才七條 若シ更正或ハ追加ヲ要スル片ハ其事
件ハ訴状若クハ其他ノ弁論昏ニ相当ニ關係
シタル事柄タラサルヘカラス但シ其更正或
ハ追加ヲ加ヘタル弁論昏ニ就テハ再度之ヲ
更正追加スルトテ許サ、ルモノトス

才八條 凡ソ海員給料ニ関スル訴訟ニ於テ現
ニ訴訟關係者タラサルモ同時ニ航海シタル

海負ハ審理中裁判所ニ於テ未タ金額ノ分配
為サ、ル以前或ハ被告人及ヒ其保証人タル
ノ責任ヲ免セサル以前何時ヲ問ハス簡易請
求昏ヲ以テ原告人ト为リ其訴訟ノ弁論ヲ为
ス、ヲ得ヘシ然レモ其海負ヲシテ訴訟關係
者タラシムル為メ施ミタル手續ニ関スル諸
費ハ之ヲ徴収スルヲ得ス

才九条 始審ノ場合ニ於ケル代言人ハ必スシ
モ前条ノ如ク自ラ求メテ原告人タリシ海負
ニ代テ訴訟スヘキノ任ヲ有セサルモノトス
但シ該海負ヲシテ訴訟關係者タラシメタル
為メ生シタル費用償却ニ就キ正当ノ申立ア
リタルキハ格別ナリトス

才十条 凡ソ海上民事ノ救助及ヒ其他ノ訴訟
ノ場合ニ於テ其請求金ノ分配ヲ得ヘキ権ア
ル者ハ仮令初審ノ場合ニ於テハ現ニ關係者
タラサルモ其情願ニ依リテハ等シク原告人
トシテ訴フヘキノ允許ヲ得ヘキモノトス但
シ此場合ニ於テハ裁判所ノ相当ト思料スル
期約ヲ遵守スヘキモノトス

才十一条 訴状ニ對スル諸般ノ令状ハ常例或ハ
特別ノ期日ヲ以テ復命スヘキモノトス然レ
モ裁判所ノ命令若クハ判決ニ依リ答スヘキ
所有品ノ公賣ニ関スル諸令状及ヒ其他諸般
ノ令状ハ常例ノ期日ヲ以テ復命スヘキモノ
トス但シ事故アリ判事ニ於テ特別速ニ復命

期日ヲ定メタルハ格別ナリトス

才十二条 毎週火曜日ハ裁判所ノ特別開廷日ト定メ但シ当日定期開廷日ナルハ格別ナリトス通常ノ如ク海上裁判権ニ屬スル訴訟ノ審判ヲ行フモノトス

才十三条 訴訟ノ初メニ於テ用ユヘキ令状ハ呼出状若クハ引致状及ヒ引致状混同ノ物権差押状或ハ判事ヨリ特別ノ許可ヲ得タルハ人権物権混同ノ差押状或ハ人権ノ差押状及ヒ外国人ニ係ル差押状タルヘシ(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則才二条參看)

才十四条 若シ此規則中ニ掲ケサル特別ノ令

状ヲ發スヘキ場合ニ於テハ訴訟關係者ハ最上裁判所ニ於テ同一ノ場合ニ使用スルト同一ノ令状ヲ求ムルヲ得ヘシ(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則才二条參看)

才十五条 凡ソ被告人ヲ逮捕スヘキノ請求ヲ為サ、ル中ハ各記ハ許状ヲ領収シタル上代言人ノ請求ニ依リ海上民事訴訟ノ慣例ニ基キ呼出状若クハ引致状ヲ發スルヲ得ヘシ(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則才二条及ヒ才七条參看)

才十六条 凡ソ被害若クハ損害未償ニ係ル訴訟ニ於テ人ヲ逮捕スヘキノ發スヘキ人権ニ關スル令状ハ判事ノ命令アル時ノ外之ヲ

發行スルヲ得サルモノトス(最上裁判所ニ
 於テ制定シタル海上裁判規則才七条參看)
 才十七条 凡ソ損害賠償ニ係ル訴訟ノ場合ニ
 於テ若シ其訴状中其賠償金額ヲ掲タルハ
 別段命令状ヲ要セズ各記ニ於テ人権ニ関ス
 ル差押状ヲ發スルヲ得ヘシ
 右差押状ニハ訴訟ノ原因及ヒ賠償金額ヲ明
 瞭ニ記載スヘシ而シテ各記ハ其裏面ニ若シ当
 然償還スヘシト誓言シタル金額以上一百弗
 以下ノ金額ヲ納付スルハ保釈ヲ得ヘキ旨
 ヲ記載スヘシ
 然レモ差押状若クハ呼出状ハ合元國ノ名ヲ
 以テ起スヘキ訴訟ノ場合ヲ除クノ外原告人

ヨリ一百弗ニ相当スル保証各ヲ差出シタル
 上ニアラサレハ發スルヲ得ス(才四十四条
 及ヒ才四十五条、一千八百四十七年四月十六
 日ノ規則及ヒ最上裁判所ニ於テ制定シタル
 海上規則才七条參看)

才十八条 「マルシヤール」官ヨリ發シタル呼出
 状及ヒ逮捕状ヲ親シク送達シタル旨ノ復命
 ラ為シタル上ハ裁判ニ於テハ其送達ヲ受ケ
 タル者ヲ以テ訴訟關係者ト看做シ而シテ其者
 ニ對シ審判ノ手續ヲ行フモノトス
 才十九条 人権ニ関スル訴訟ニ於テ發シタル
 呼出状若クハ引致状ヲ親シク送達スルヲ
 得サルハ原告人ハ隨意ニ被告人ニ對シ送

令ノ罪タル裁判ヲ請フコトヲ得而シテ此裁判言
渡ハ恰モ他ノ令状違犯ト等ク被告人ヲ差押
フヘキ命令ヲ包含スヘキモノトス
又原告人ニ於テ訴状ヲ以テ請求シタル諸般
ノ事件ヲ宣誓ノ上証明シタル場合ニ於テ呼
出状ヲ送達スルコト能ハサル復命アリタル
ハ速ニ人權ニ関スル差押状ヲ請求スルコトヲ
得ヘシ

オ二十条 此他前上ノ場合ニ関スル設般ノ手
続ハ始審廳ニ於テ差押状ヲ請求シタル場合
ト同一ノ方法タルヘシ

オ二十一条 凡ソ海上ノ訴訟ニ関シ人ヲ逮捕
スヘキ令状ヲ發シタル場合ニ當リコトマルシヤ

一ル官ハ被告人ヲシテ令状ニ記載シタル金
高ニ相当スル保証金ヲ出サシメ而シテ裁判所
ノ規則ニ從ヒ海上民事ノ訴訟ニ就キ原告人
ニ對シ答弁ヲ為スヘキ為メ復命期日ヲ以テ
出頭スヘキノ約定ヲ為サシメタル上保釈ヲ
許可スルコトヲ得ヘシ(最上裁判所ニ於テ制定
シタル海上裁判規則オ三条及ヒオ四十八條
參看)

オ二十二條 保証人其身分ニ就キ宣誓ヲ行ヒ
而シテ保釈証書ヲ差出シタル中ハ原被告人ノ
利害ニ就キ恰モ裁判所ニ於テ之ヲ認可シタ
ルト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス
又コトマルシヤ一ル官ハ被告人ノ出廷ニ就キ總

テ其責ニ任シタルモノト省做サルヘシ
 才二十三条 「マルシヤール」官ニ於テ保証昏ヲ
 整頓セサルカ或ハ請求ヲ受ケナカラ保証人
 ノ許可ヲ為スヲ拒絶シタル場合ニ於テハ
 恰モ保証昏ヲ記載セサルト同一ノ手續ヲ以
 テ「マルシヤール」官ニ對シ告訴スルヲ得ヘ
 シ
 才二十四条 若シ訴訟関係者ニ於テ令状ノ復
 命期日ニ自ラ出廷シ而シテ自ラ監禁ヲ受ルカ
 或ハ裁判所ノ法式ニ從ヒ通常保証昏ヲ差出
 シタルハ前ニ為シタル保証ノ条件ハ全ク
 尽シタルモノト省做サルヘシ
 才二十五条 若シ逮捕状ヲ發シタル被告人ヲ

發見スルヲ得スシテ其旨ノ復命ヲ為シタ
 ルハ原告人ハ判事ノ許可ヲ得タル上被告
 人所有ノ財産ヲ差押フヘキノ令状ヲ求ムル
 ヲ得ス其令状中ニハ海上裁判ノ規則ニ從
 ヒ外国人ニ係ル差押ニ関スル箇条ヲ記入ス
 ヘキ求メヲ為スヲ得ヘシ
 才二十六条 凡ソ海上裁判所ノ令状ニ從ヒ被
 告人ノ出廷ヲ命スヘキ差押状ヲ發シタル場
 合ニ於テ訴訟関係者ヲシテ保証人ヲ具シタ
 ル保証昏ヲ差出サシメタル上恰モ逮捕状ヲ
 發シタル場合ト等シク其差押状ヲ取消ス
 得ヘシ(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上
 裁判規則才四条參看)

才二十七条 凡ソ外国人ニ係ル差押状ヲ發シタル場合ニ於テ若シ其被告人出廷シタルハ通常人權ニ関スル訴訟ノ場合ト同一ノ処分ヲ為スヘキモノトス又若シ被告人欠席シタルハ裁判所ニ於テハ一方者ノ審問ヲ遂ケ而シテ相当ノ判決ヲ為スヘシ但シ管財人ノ情願ニ依テ其差押状ヲ取消スルハ格別ナリトス

才二十八条 凡ソ令状ハ判事ノ下命及ヒ豫メ訴訟ノ因テ起リタル確証ヲ立テタルハ才ラサレハ積荷訴訟ニ關係アル物件若シハ才三ノ人ノ現有スル金額ニ對シテハ之ヲ發スルヲ得サルモノトス

又才三ノ人ノ氏名及ヒ財産ノ差押ヲ受クヘキ者ノ氏名ハ前上諸般ノ財産ノ目錄ト共ニ令状中ニ明記スヘキモノトス

才二十九条 凡ソ財産差押状ノ送達ヲ為シタル場合ニ當リ其差押ヲ受ケタル財産若シハ金額ヲ現有シタル者ハ其令状ノ復命期日ニ誓昏ヲ以テ右現有財産若クハ金額ハ即チ現ニ差押状ヲ送達シ而シテ之ヲ差押ヘタル當時全ク其者ニ屬スヘキモノタルトテ正実ニ申立テ且ツ其財産ノ部分ニ就キ如何ナル特権ヲ有シタル旨ヲモ開陳スヘシ此場合ニ當リ原告人ノ請求ニ依テハ其特権ノ屬セサル財産ニ相当スル金額或ハ裁判所ニ於テ下命シ

タル金額ヲ裁判所ニ納付シ或ハ保証人ヲ具シタル保証各ヲ以テ此財産ニ就キ裁判所ニ於テ下ス処ノ命令若クハ判決ヲ遵守スヘキ旨ヲ証スヘシ若シ之ヲ怠ルキハ直ニ差押状ヲ執行セラルヘシ但シ其怠ヲ為シタル日ヨリ四日以内又ハ裁判開廷ノ初日ヲ以テ其怠リノ事由ヲ証明シタルキハ格別ナリトス

オ三十条 若シ令状中ニ記載シタル財産ヲ管財人若クハ受托者ニ於テ「マルシヤール官ニ引渡サス或ハ訴訟関係者ノ所有物ニアラサル旨ヲ申述タルキハ其令状ノ謄本ヲ右受托者ニ交付シ或ハ其住所又ハ事務所送達スルヲ以テ其令状送達ノ效アルモノトス但シ原

告人ニ於テ相当ノ保証人ヲ以テ「マルシヤール官ニ指命シタル財産ノ差押ニ関スル損害ヲ償却スヘキ旨該官ニ對シ保証シタルキハ格別ナリトス(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則オ三十七条參看)

オ三十一条 「マルシヤール官ニ於テ通知状及ヒ其他ノ各面ヲ以テ前条差押状送達ニ関スルノ事由ヲ復命シタルキハ原告人ハ裁判所ニ對シ再度ノ差押状或ハ其他相当ノ令状ヲ發セシ「ヲ兼願スル「ヲ得ヘシ

又其財産等ハ果シテ被告人ニ屬シタルモノナル「ヲ認メタルキハ裁判所ニ於テハ恰モ其財産ヲ差押ヘタル場合ト等シク其訴訟ノ

審問ヲ為シ而シ最終ノ判決ヲ下スルヲ得ヘ
シ(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規
則ヲ三十七條參看)

ヲ三十二條 九ソ「マルシヤ」ル官ニ交付シタ
ル諸般ノ令状ハ其復命期日ヲ以テ復命スヘ
キモノトス若シ各訴訟關係者若クハ其代言
人ヨリ誓昏ヲ以テ該官ニ對シ令状ノ交付ヲ
請求シタル後四日以内ニ該官ニ於テ其令状
復命ヲ為サルハ該官ハ何故ニ其差押状
ヲ執行セサルヤ之ヲ証明スヘキノ命令状ヲ
求ムルヲ得ヘシ
又物權ニ関スル令状ノ場合ニ於テ「マルシヤ
」ル官其復命ヲ為スニ當リ若シ其令状差押

若クハ公賣ニ関スルハ即チ其財産差押日
若クハ公賣ノ日ヲ明示スヘキモノトス
ヲ三十三條 九ソ令状ハ其執行ノ命ヲ受ケタ
ル官吏ニ於テ正当ノ復命ヲ為シタル上ニ非
サレハ之ヲ還納シタルモノトスルヲ得ス

第三十四條 公庭ニ於テ令状ノ復命ヲ為スヘ

キ場合ニ當リ現ニ裁判所開庭中ナルハ(常

例若クハ特別開庭トヲ分タス)次回ノ開庭迄

其手續ヲ経續スルモノト同視セラレヘシ但

シ此場合ニ於テハ恰カモ前規中ニ之ヲ復命

シタルト同視セラレヘシ

第三十五條 凡ソ令状ノ復命ヲ為シタル後ニ

其旨ヲ公告シタル上ハ原告人ハ事状ニ從ヒ

懈怠若クハ違令罪ノ言渡ヲ求ムルノ權アル

モノトス但シ從前施シ來レル三種ノ公告法

ハ廢止セリ(一千八百四十七年十二月一日頒

布ノ規則及ヒ一千八百六十三年二月七日頒

布ノ規則及ヒ最上裁判所ニ於テ制定シタル

海上裁判規則第二十九條參看

第三十六條 凡ソ海上民事ノ訴訟上財産ヲ差押ヘ若クハ人ヲ逮捕スヘキ令狀ヲ發シタル場合ニ於テ(一千七百九十年七月二十日ノ議院決議書ニ基キ証人ニ依テ差押狀ヲ發スヘキ所謂海員ノ給料ニ関スル訴訟ノ場合ヲ除ク)逮捕ヲ受ケタル訴訟關係者若クハ差押ヲ受ケタル物件ニ干渉シ得ヘキ權アル者ニ於テ裁判手續ニ違背シ或ハ原告ヨリ不條理ノ處分ヲ施シタルノ証拠ヲ立テタルハ原告人ヲシテ何故ニ右逮捕若クハ差押ヲ取消サシムルヤ其理由ヲ申立テシムルヘキ命令ヲ下サシムル判事ニ對シ求ムルヲ得ヘシ

第三十七條 凡ソ海上訴訟ニ関スル保証人ヲ裁判所外ニ於テ認可スルハ委任狀ニ依リ各記若クハ委員ノ面前ニ於テ之ヲ為ス可キモノトス

右保証人各ヲ認可スヘキ官吏ハ相手方訴訟關係者ノ請求ニ依リ宣誓ノ上其証人ノ如何ヲ審査シ而シ其適否ヲ判決スヘシ又前上ノ場合ニ於テ証人ヲ否許シタルハ速ニ判事ニ上訴スルヲ得ヘキモノトス(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則第五條及ヒ第三十五條參看)

第三十八條 人推ノ訴訟ニ関スル保証人中ニハ即チ當裁判所若クハ(上訴ノ場合ニ於テハ)

上訴裁判所ヨリ請求ヲ受ケタルハ直ニ之
ニ應シテ出庭シ而シテ訴訟或ハ訊問ニ對シテ
答弁ヲ爲シ及ヒ裁判所ヨリ言渡シタル諸般
ノ費用ヲ約付スヘキ旨ヲ記載スヘシ若シ被
告人ヨリ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ前上
ノ外其訴訟ニ関スル諸般ノ命令及ヒ判決ヲ
遵奉シ或ハ前上ノ命令ヲ執行スヘキ相当官
吏ノ處分ニ服従スヘキ旨ヲ記載スヘキモ
ノトス 最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁
判規則第三條參看

第三十九條 凡ソ人権ニ係ル訴訟ノ場合ニ於
テ被告人ヨリ差出スヘキ保証金額ハ逮捕状
ニ裏合シツル金額ト同一タルハシ而シテ物権
ニ係ル訴訟ノ場合ニ於テ差押ハラレタル財
産ヲ引渡シタルハ其差押ヲ受ケタル財産
ノ評價及ヒ約定金額ニ従フヘシ但シ人権ノ
場合ト虽モ裁判所ノ命令ニ依リ前上ノ金額
ヲ改正増加スルヲ得ヘシ

第四十條 凡ソ人権ニ係ル訴訟ノ場合ニ於テ
人ヲ逮捕シタル後保釈証書ノ金額ヲ減少ス
ヘキ歎願ヲ爲サント欲スルハ判事ニ對シ
直ニ爲ストヲ得ヘキモノトス

又保釈証書ニ依リ財産ヲ引渡シタル後生シ
タル事情ヲ以テ其証書ヲ取消シ或ハ條理ニ
従テ其金額ヲ減少セント欲スルハ其財産
ヲ引渡シタル後何時ヲ問ハス其請求ヲ爲ス

言人ニ向ケ其通知ヲ為ス
トテ得ヘキモト
ス(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則
則第ニ六条參看)

第 四 十 一 条 凡ソ差押ヲ受ケタル財産ヲ保釈
証昏ヲ以テ引渡ヲ得ント求ムル片ハ其求メ
ヲ為ス二日以前ニ原告代官人ニ送ルヘシ且
ツ其証昏中ニハ保証人ノ氏名及ヒ其職業住
所ヲ記載シ加之其証昏ヲ呈スヘキ官吏ノ氏
名及ヒ場所ヲ詳記スヘシ但シ海員給料ニ関
スル訴訟ノ場合ニ於テ急速ヲ要スル片ハ此
限ニアラス(一千八百五十七年十月一日ノ規
則ヲ參照スヘシ)

第 四 十 二 条 裁判所ヨリ發シタル令狀ヲ以テ
差押ヘタル財産ノ引渡及ヒ釈放ヲ受クル為
メ差出スヘキ証昏ニハ即チ原告人及ヒ其保
証人ハ並裁判所若クハ上訴ヲ受理シタル裁
判所ノ命令若クハ判決ヲ受ケ且ツ其財産ノ
引渡ヲ受クヘキ訴訟關係者ノ代官人ニ對シ
右命令ノ次第ヲ通知シタル上ハ何時ヲ問ハ
ス右判決命令ヲ以テ命セラルヘキ財産ノ評
價或ハ双方約定シタル價額ノ全部或ハ幾部
ヲ納付スヘキ旨ヲ掲載スヘキモノトス
若シ訴訟關係者ニ於テ代官人ヲ使用セザル
片ハ前上ノ命令若クハ判決ハ之ヲ登記シタ
ル後二日ヲ經テ確定シタルモノト者做サレ

ハニ最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則第十條及ヒ第十一條參看

第四十三條 唇記ハ海上民事ノ許詔上差出スヘキ諸般ノ保証唇ヲ登記スヘキ簿冊ヲ備ヘ置キ許詔關係者ノ見聞ニ供スヘシ

第四十四條 凡ソ物權ニ係ル令狀ハ合元國ニ関スル場合ヲ除クノ外發行セサルノミナラズ出廷答弁或ハ第三ノ人ヲシテ其許証ニ干渉セシムルヲ許サ、ルモトス但シ許詔

關係者ニ於テ二百五十弗ノ金額ニ相当スヘキ保証唇ノ登記ヲ受ケ而シテ其地方内ニ居住シタル者一名ヲ選ニテ証人ト為シ許詔本人ニ對シ當裁判所ハ上訴ノ場合ニ於テハ上

訴裁判所ヨリ命セラルヘキ諸般ノ費用ヲ償却スヘキ保証ヲ為サシメタルキハ格別ナリ

トス(第十條及ヒ一千八百四十七年四月十六日ノ規則及ヒ「ニウヨルク」東方地方ニ居住

シタル保証人認可ニ関スル一千八百六十五年四月二十六日ノ規則及ヒ最上裁判所ニ於

テ制定シタル海上裁判規則第二十六條參看)

第四十五條 然レモ米國船舶ノ使役ヲ受ケタル船員自身ノ權利及ヒ利益ノ為メ其給料ニ係ル物權上ノ許詔ヲ起シタル場合及ヒ救助物件ヲ湊港マケテ携帶シ來レル救助人ニ對シ許詔アリタルキハ前條ノ如キ保証ヲ要セサ

ル者トス

裁判所ニ於テハ請求ニヨリ相当ノ事由アル
ハ物件差押ノ後原告人ニ通知ヲ為シ通常
ノ証昏ヲ差出サシメ或ハ差押ヘタル財産ヲ
釈放スヘキノ命令ヲ下スヲ得ヘシ(一千八
百四十七年四月発行ノ規則ニ由リ本条ハ人
権及ヒ物権ノ許詔ニ係セテ適用スヘキモノ
トセリ即チ第十七条ヲ参照スヘシ)

第四十六条 人民相互リ許詔ニ於テ物件ニ関
スル差押状ヲ以テ財産ヲ差押ヘタル通知状
ハ合衆國ニ関スル場合ニ於テ行フヘキ差押
ニ関スル議院決議法ヲ以テ定メタル方法ニ
從ヒ之ヲ公告掲示スヘキモノトス但シ右通

知ニ就キ判事ニ於テ特別ノ命令ヲ以テ公告
期限ヲ十四日以内ニ定メタル片及ヒ許状中
ニ記載シタル案件ノ全部ヲ掲ケヌシテ其趣
意ノミヲ摘報スル片ハ格別ナリトス

第四十七条 凡ソ物権ニ関スル許詔ノ場合ニ
於テ其判決後財産公賣ニ係ル公告期限ハ(收
税法ニ依ルヘキ場合及ヒ合衆國ニ関スル差
押ノ場合ヲ除ク)六日タルヘシ但シ處刑及ヒ
公賣ニ係ル判決ヲ以テ特別ニ其期限ヲ命ジ
タル片ハ此限ニアラス

第四十八条 凡ソ收税法ニ基キ判決ヲ下シタ
ル場合ニ係ル諸般ノ公告ハ議院ノ決議法ヲ
以テ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ為スヘキモノ

トス

第四十九条 凡ソ「マルシヤール」官ハ收税官吏

ニ於テ差押ハ而ノ没收スヘキ船舶船具及ヒ
什器ヲ管守シタル時間一日ニ付一弗五十セ
ント「裁判所」ノ旧慣ニ從カヒ「請求」ムル「得
可シ

第五十条 「マルシヤール」官ハ左ノ割合ヲ以テ

差押物品ノ管守料ヲ求ムル「得」ハシ

一 五十弗以下ノ價額ニシテ三十日以内ノ

管守ヲ為シタル「其百分ノ二

二 五十弗以上ノ價額ニシテ三十日以内ノ

管守ヲ為シタル「其百分ノ一

三 五十弗以下ノ價額ニシテ三十日以上ノ

管守ヲ為シタル「其百分ノ二分五厘

四 五十弗以上ノ價額ニシテ三十日以上ノ

管守ヲ為シタル「其百分ノ一分五厘

但シ其差押品貨幣地金其他ノ寶石ニ係ル「片

ハ其時ノ形状ニ從ヒ裁判所ニ於テ特別ニ定

タル管守料ヲ「マルシヤール」ニ於テ徴收スル「得

ヲ得ヘシ

第五十一条 此他「マルシヤール」官ハ海上民事

訴訟ニ於テ差押フヘキ諸般ノ物品ニ係ル「費

用ヲ徴收スル「得」ヘシ

第五十二条 然レモ總テ前条ノ費用ハ裁判所

ニ於テ請求ニ從ヒ相手方訴訟関係者ニ通知

シ且ツ相当ノ理由ヲ証明セシ「得」ル「上」之「得

改正スルヲ得ヘシ

第五十三条 前上ニ定メタル物品管守ノ為メ
「マ」ニヤ「ル」官ニ拂フヘキ費用ハ公賣ノ場
合ニ於テハ其処分ヲ結了シタル上計算シ若
シ保釋ノ場合ニ係ルハ評價若クハ双方約
定ノ價額ニ從テ之ヲ計算スヘシ
然レモ訴訟關係者双方ノ間ニ約定シタル價
額ニ就キ「マ」ニヤ「ル」官ニ於テ不同意ヲ唱
フルハ該官ハ普通ノ方法ニ從テ評價ヲ求
ムルヲ得ヘキモノトス

第五十四条 凡ソ物權ニ係ル差押状ヲ登シタ
ルハニ當リ請求金額(諸費用償却ノ為メ)ニ百
五十弗ヲ加ヘタルモノヲ記載シタル命令状

ヲ「マ」ニヤ「ル」官ニ從ヒテ下付シタル場合
ニ於テ之ヲ執行スル中ハ該官ハ其金額ニ相
當スル物件ヲ差押フルヲ得ヘシ

第五十六条 凡ソ海上民事訴訟上保証各々差
出シタル場合ニ於テ其訴訟ノ本案ニ關係ヲ
有スル各人ハ相当ノ理由ヲ証明シ而シテ二日
前ニ相手方ニ通知ヲ為シタル上更ニ多額善
良ナル保証ヲ差出サシムヘキヲ裁判所ニ
請求スルヲ得ヘシ但シ判事ノ命令ヲ以テ
前上ノ期限ヲ減縮シタルハ格別ナリトス
最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則

第六條參看

第五十六条 人権ノ訴訟ニ関スル召喚状若ク

ハ逮捕状ヲ親シク送達シタルノ復命ヲ爲シ
タル後ニ至リ若シ被告人其期日ニ出廷セサ
ルハ右被告ハ違令及ヒ懈怠者ト看做サレ
可シ而シテ原告人ハ保證各若シ保證各ヲ差出
シタル場合(ハ)ノ執行ヲ爲サシメ或ハ
海上裁判手續ニ從ヒ強テ被告ヲ出廷セシム
ヘキノ命令ヲ求ムルヲ得ヘシ又或ハ原告
人ノ選擇ニ依テハ一方ノミノ審問ヲ受ケ而シ
相当ノ判決ヲ受クヘキノ求メヲ爲スヲ得ヘ
シ但シ裁判所ニ於テ正當ノ理由ニ依リ被告
人ニ對シ猶豫ノ期限ヲ與ヘタルハ格別ナ
リトス

第五十七條

凡ソ人権ノ許諾ニ於テ被告人ヲ

逮捕シタル場合ニ當リ「マ」ルシヤル官ニ差出
シタル保證各ノ保證人ハ恰モ法律上保釈ノ
場合ト等シク保證ノ事件ヲ遂ケタル上ハ其
義務ヲ免カレヘキモノトス

第五十八條

故ニ人權ノ許諾ニ於テ登シタル

差押状ノ復命ヲ爲シタル上ハ保證人ハ恰モ
法律上特別保釈ノ場合ト等ク本人ヲシテ其保
証ノ事件ヲ遂ケシメ或ハ本人自ラ之ヲ遂ケ
タルキハ其保證ノ義務ヲ免カレヘキモノト
ス

但シ當裁判所或ハ其他訴ヲ受理シタル裁判
所ニ納付スヘキ費用ニ係ル保證ナルハ此
限ニアララス

第五十九条

九ツ海上民事訴訟ニ於テ差出ス

ハキ諸般ノ保證書ハ若シ其本人其地方内ニ
アルキハ其本人及ヒ其地方ニ住居スル一名
ノ保證人ニ對シテ執行スヘキモノトス而シテ
其保證書中ニ其關係者本人若クハ保證人ニ
於テ若シ懈怠或ハ違令ノ所為アルキハ右保
証書ニ記載シタル金額ニ相当スル執行狀ヲ
其保證人ノ財産及ヒ土地ニ對シテ発行スヘキト
ヲ兼諾シタル旨ヲ記載スヘキモノトス

裁判所ハ時ノ形狀ニ從ヒ其執行ヲ為スヘキ
時及ヒ徵收スヘキ金額ニ就キ執行狀ヲ改正
スルコトヲ得ヘキモノトス

若シ本人其地方内ニ住居セザルキハ少クモ

二名以上ノ保證人ヲ立ツヘキモノトス
ヨル東部地方ニ住居シタル保證人認可ニ
關スル一千八百六十五年四月廿六日ノ發行
規則ヲ参照スヘシ

第六十条

凡ソ合流國ノ便益ニ依テ財産ノ差

押ヲ為シタル場合ニ於テ其財産ヲ保釈スル
ニ就キ評價ヲ為スニハ其關係者ニ於テ一日
以前ニ裁判所若クハ休暇判事ニ歎願書ヲ差
出スヘキ通知ヲ為シ而シテ右評價人ヲ選定ス
ヘキノ求メヲ為スコトヲ得ヘシ

第六十一条

若シ訴訟關係者若クハ其代言人

及ヒ郡代言人裁判所ニ出庭シタルハ前条ノ歎
願ハ別段通知ヲ要セス差押ノ後ト虽モ之ヲ求

ルヲ得ヘシ

第六十二條 凡ソ人民相互ノ訴訟ニ於テ差押
ヲ為シタル財産ノ評價ニ係ル諸般ノ命令ハ
其訴訟ニ關係アル者ノ情願ニ依ルカ又ハ各
訴訟關係者ノ代言人ノ認可昏ニ依リ当然書
記ニ於テ之ヲ記スヘキモノトス

第六十三條 凡ソ人民相互ニ関スル訴訟ニ於
テ別段判事ヨリ命令アルニアラサレハ草ニ
一名ノ評價人ヲ選任スルヲ以テ足レリトス
而シテ若シ雙方ノ訴訟關係者評價人選任書ニ
就キ協議整ハサルハ昏記ニ於テ直ニ評價
人ヲ指名スルヲ得但シ此場合ヒニ於テ相
當ノ事由ニ依テ右評價人選任ニ関シテ不服

ナルハ直ニ判事ニ上訴スルノ權アルモノ
トス

第六十四條 凡ソ船舶船具及ヒ其附屬品ノ評
價ヲ為スヘキ場合ニ於テハ昏記ハ其所屬港
ノ監守人ヲ以テ評價人トシ又高品ノ場合ニ
於テハ税関所屬ノ評價人若クハ評價人補ヲ
以テ其評價人ト為スヘキモノトス

第六十五條 凡ソ船賃給料ニ係ル物件上ノ訴
訟及ヒ其他金額ニ係ル物件上訴訟ノ場合ニ
於テ原告人若クハ答弁人ハ訴訟中ニ記載シ
タル請求金額ト最初其金額ヲ貸渡シタル片
ヨリ差押状ノ復命ニ依テ関キタル関廷日迄
ノ利金ト及ヒ既ニ生シタル裁判所官吏ヘノ

納付費用ト其他ノ費用并償ニ充ツハキ金額
二百五十弗トテ裁判所ニ納付シ或ハ原告人
若クハ答弁人ノ選擇ニ依テハ右請求金額及
利息費用其他損害金額(就中既ニ生シタル
裁判所官吏ハノ納付金ハ第一ニ償却スヘキ
モノトス)ヲ納付スヘキノ保証各ヲ差出ス
得ヘキ者トス

右二箇ノ場合ニ於テハ末タ評價ヲ遂ケサレ
以前差押財産ノ交付ニ関スル命令ヲ求ムル
ヲ得可シ

第六十六條 凡ソ評價人ハ其委任事件ヲ行フ
以前書記若クハ其附屬官吏(書記若クハ其附
屬官吏ハ評價人ノ身分如何ニ関スル調査ヲ

為マヘキ委員タルノ任アルモノトス)ノ面前
ニ於テ正実ニ其職務ヲ行フヘキノ宣誓ヲ為
ス可シ而シテ其評價ヲ行フ一日以前ニ之ヲ行
フ時日及ヒ場所ヲ報告スヘキモノトス但シ
其報告書ハ合元國裁判所接近ノ地ニシテ公
ケノ場所ニ貼付スヘキモノトス
前上ノ報告書ハ全ク關係者諸人ヲシテ其旨
ヲ知ラシムル為メ通常「マレシヤ」ヲシテ掲
示セシメ而シテ其評價ヲ遂ケタル以上ハ其旨
ヲ書記局ニ報告セシムルモノトス

第六十七條 当裁判所ノ命令ニ依テ行フヘキ
評價人ハ各自ニ其評價ニ從事シタル時間一
日ニ付三弗宛ヲ得ヘキノ權利ヲ有スヘシ但

シ右金額ハ評價人ノ求メニ依リ訴訟關係者
ヲシテ之ヲ償却セシムルモノトス

第六十八條 「マ」ルシヤル官ノ管守ニ屬スル船
舶物品或ハ高物ヲ評價及ヒ保證ニ依リ釈放
スルキハ其評價ヲ求メタル者ヲシテ費用ニ
関スル裁判所ノ判決ヲ遵守セシムル爲ノ管
然生ス一キ裁判所官吏ヘノ納金ヲ豫メ納付
セシメサルハカラス

第六十九條 裁判所官吏ノ管守シタル財産ハ
裁判所ノ命令アルニアラサレハ之ヲ引渡スト
ラ得サルモノトス但シ右命令状ハ差押ヲ求
メタル者ノ代言人ヲシテ承認各ヲ差出サシ
メ向ノ正当ニ評價ヲ行ハシメ且ツ保證各ヲ

差出サシメタル上各記ニ於テ之ヲ記スハキ
モノトス

第七十條 凡ソ所有權ニ関スル訴訟ニ於テ原
被両造ニ對シテ判決ヲ下シタル後其一方ノ
者裁判所ニ向テ所有權回復ノ訴訟ニ関スル
處分ヲ求メ而メ相当ノ保證各ヲ提出シタル
場合ニ於テハ先ツ評價ヲ行ヒ或ハ若シ所有
權回復ノ訴訟ニ於テ相手方勝利ヲ得タルハ
ハ損傷ナソノ物件ヲ還付シ且ツ郡裁判所及ヒ
上訴ノ場合ニ於テ上訴裁判所ノ判決ト等ク
裁判所ノ諸般ノ命令及ヒ裁決ヲ遵守スヘキ
旨ヲ保證シタル證各ヲ差出サシメタル上ニ
アラサレハ其訴訟物件ヲ利益者ニ下付スル

トヲ得サル者トス

第七十一条 當裁判所ニ訴ハタル財産ノ評價
或ハ約定代價ニ就キ各記ハ差出シタル証各
中ニ裁判言渡ヲ記入シタル片ハ各記ハ其証
各ノ金額ノ外尚ホ其裁判言渡ヲ記入シ或ハ
証各ニ日附ヲ為シタルヨリ其金額ヲ裁判所
ニ納付スル日ニ至ル迄一年ニ付六分ノ利足
ヲ領收スヘシ

第七十二条 自認提供ハ訴訟ヲ起シ未タ其答
弁々駁ヲ為サ、ル已前裁判所ニ於テ下スヘ
キ判決又ハ命令ヲ遵守セシムル為メ之ヲ領
收シタル時ニアラサレハ答弁ヲ免カレ或ハ
費用弁償ノ責ヲ免ル、トヲ得ス

第七十三条 訴訟ヲ起シタル後直チニ前上ノ
提供ヲ為シタル片ト虽モ當時既ニ生シタル
費用ハ之ヲ償フヘキモノトス

第七十四条 第三ノ人ハ苟モ訴訟本案ニ就キ
現ニ利害ヲ有スルノ確証アルニアラサレハ
其訴訟ニ参典スルヲ得ス但シ此確証ハ即
チ原告ノ誓詞ヲ以テ定ムルト虽モ若シ并論
若シハ簡易訴状ニ依リ原告ニ對シ及証ヲ呈
シタル片ハ格別ナリトス 最上裁判所ニ於テ
制定シタル海上裁判規則第二十六条及ヒ第
三十四條参照

第七十五条 再答弁各若クハ異議申立各并駁
各再弁駁各等ハ事件ノ差異、ルニ從テ其并

論モ亦異ナルヲ以テ豫ノ裁判所ノ允可ヲ得ルニアラサレハ差出ヌコトヲ得ス

第七十六条 凡ソ法律又ハ事实上ノ答弁ハ答弁又ハ反对申立昏ヲ以テ之ヲ為シ通常海上民事ノ訴訟ニ用フル処ノ異議申立昏或ハ其他特別弁論昏ハ之ヲ用ヒサルモノトス但シ訴訟關係者又ハ令状ノ適否或ハ其他訴訟取消ノ申立ニ對スル異議申立昏ノ如キハ格別ナリトス

第七十七条 若シ答弁昏又ハ反对申立昏ヲ以テ原告ノ請求ニ對シ法律上ノ異議ヲ申立テ而シ裁判所ニ於テ之ヲ認可シサルハ其異議ヲ答レタル事件ニ關スル費用ハ之ヲ徴收セス他ノ事件ニ係ル費用ハ總テ之ヲ徴収ス可キモノトス

第七十八条 若シ答弁昏ヲ以テ訴訟全部ニ對シ異議ヲ申立タルハ之ヲ弁論ト同一ニ処分シ而シ別段此異議ノ申立ニ對スル弁論昏ヲ差出サシムルコトナク或ハ事实上ノ弁論昏ニ依リ確証ヲ認ムルコトナク直ニ之ヲ審問ニ附スヘキモノトス

第七十九条 若シ答弁ノ求メラセタル各人反对申立昏及ヒ答弁昏ニ依テ其訴訟ニ干渉シタルハ其反对申立ニ關スル費用ノミヲ徴收セラレヘキモノトス

第八十条 凡ソ物權ノ訴訟ニ其本案ニ關係セ

サレ各人ニ對シ答弁ヲ求タルハ其各人
ハ右請求者ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ而シ其
審問ヲ通知スルヲ得ヘシ
此場合ニ於テ若シ裁判所ハ右各人ノ申立ヲ
是ナリト判定シタルハ右各人ハ其訴訟ヲ
免レ且ツ其費用ヲ負擔スルニ及ハサルモノ
トス

第 八 十 一 条 凡ソ人權ノ訴訟上不正ニ被告
トナリタル者ハ前条ト同一ノ方法ニ依テ訴
訟及ヒ費用ヲ免ルノ判決ヲ求ルヲ得可
シ但シ其訴訟事件ニ付証人トシテ証拠ヲ申
立テシムルヲ裁判所ニ於テ認メタルハ格
別ナリトス

第 八 十 二 条 反對申立昏ヲ以テ原告ヨリ申立
タル權利ナシト申立ル場合ニ於テ其原告ノ
申立タル數多ノ条件中或ハ認メ或ハ認メサ
ルモ單ニ原告ノ出訴シタル事件ハ之ヲ請求
スルノ權利ナシト申立ルヲ以テ即チ通常ノ
弁論ト同視スルヲ得可シ
最上裁判所ニ
於テ制定シタル海上裁判規則第二十六条參
照

第 八 十 三 条 誓詞上ノ答弁ヲ求メサル場合ニ
於テハ其答弁昏ヲ以テ通常ノ弁論ト同視セ
ラルヘシ
最上裁判所ニ於テ制定シタル海上
裁判規則第二十七条參照

第 八 十 四 条 故ニ正式ノ弁論ニ依ラス通常ノ

弁論ヲ以テ訴訟ヲ確定スルヲ得ヘシ

第八十五条 凡ソ令状ノ復命日ヲ以テ公庭ニ

於テ原告ノ請求ニ對スル通常ノ弁論ヲ行フ

片ハ原被一方ノ者ハ其事件ヲ直クニ事件表

ニ掲載セシメ而別段ノ通知ヲ要セズ確証トシ

テ之ヲ引証スルヲ得ヘシ

第八十六条 前上ノ場合ニ於テ各関係者ハ恰

モ通常ノ規則ニ從ヒ通知ヲ為シタルキト同

一ノ処分ヲ求ムルノ權アリトス

第八十七条 凡ソ宣誓答弁唇ハ其因テ起リタ

ル訴訟ニ比スレハ稍々其証拠ノ効力薄弱ナ

ルモノト看做サルハシ但シ檢察ノ職務ヲ以

テ答弁シタルハ格別ナリトス

又初メ宣誓訴訟又ハ合流國ヨリ差出シタル

訴訟ヲ以テ求メタル場合ニアラサレハ宣誓

答弁ヲ行フヲ要セス(最上裁判所ニ於テ制

定シタル海上裁判規則第二十七条及ヒ第四

十九条参照)

第八十八条 凡ソ訴訟ヲ以テ申立テタル事件

ニ對シ宣誓答弁唇ヲ以テ申立タル事件ハ其

答弁ヲ為シタル日ヨリ或ハ其答弁ニ對スル

故障ノ期限ヨリ四日以内ニ原告ニ於テ再答

弁唇ヲ差出スカ或ハ追テ審問ノ場合ニ於テ

其答弁ノ事件ニ對シ反對ノ証拠ヲ呈出スヘ

キ旨ヲ記シタル通知状ヲ被告代理人ニ送達

スルニアラサレハ原告ハ別テ之ヲ認可シタ

ル者ト看做サルヘシ但シ其答弁各ハ原告ノ
申立ニ依テ事実ヲ決スヘキトテ其論スル場
合ニアラサレハ之ヲ差出ストテ要セサル者
トス(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判
規則第五十二条ヲ以テ本案ノ規則ヲ改正セ
リ)

第九十条 凡ソ反對申立各若クハ答弁各ハ
令状ノ送達後ニシテ末々懈怠タルノ記入ヲ
為ス以前何時ヲ問ハス差出ストテ得ヘキ者
トス

又若シ豫定ノ期日外ニ前上ノ各類ヲ差出ス
ヘキ時ハ原告ニ對シ其旨ヲ通知スヘシ否ラサ
レハ原告ヲシテ其答弁ヲ遵守セシムルノ効ナ
キ者トス

第九十條 同一ノ代言人或ハ同事件ニ關係シ
タル他ノ代言人ニ於テ各異様ノ答弁或ハ反
對申立書ヲ差出シタル時ハ之ヲ爲メ無用ニ
生シタル費用ハ總テ之ヲ徴收スルトテ得サル
モノトス

第九十一条 合流國ノ名義ヲ以テ出スヘキ答
弁各又ハ反對申立書ハ宣誓ヲ用ヒス郡代言
人ヲシテ之ヲ差出サシメ而シテ其答弁各不
完全ノ故障ヲ許サス

第九十二条 凡ソ人權ニ関スル保釈令状ヲ發
スヘキ場合ニ於テハ被告人出庭シ而シテ裁
判所ノ規則ニ從ヒ保釈証各ヲ差出サシムルニ
ア

ラサレハ答弁唇又ハ反對立唇ヲ無効トシ
而ノ被告懈怠者タルノ登記ヲ為ス
者トス

此等ノ場合ニ関スル答弁唇ハ其保釋ノ完全
ニ至リシ時ヲ以テ差出シタルモノト看做サ
ルヘシ

第九十三條 原告又ハ被告人合衆國ヲ去ルカ

又ハ新約克府ヲ距ル一百マイル以外ノ地ニ
居住シタル証挺アル片ハ右關係者ノ代
言人又ハ代理人ニ於テ反對申立唇又ハ
答弁唇ニ宣誓スルトヲ得ヘキモノトス

此場合ニ於テ原告人若レ被告人ニ通知書ヲ
送致シテ被告人自ラ宣誓シテ証明シタル答

弁唇ヲ得ント請求シタル片ハ令状ヲ發シテ

其答弁ヲ得ルニ相当ノ時間審理手續ヲ中止

スヘシ但シ此條ノ規則ハ猶ホ代
理人ノ宣誓ヲ以テ訴状ヲ証明スル場合ニ

ニモ亦適用スヘキモノトス

最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則
第九十六條參照

第九十四條 被告人ハ令状ノ復命日ニ於テ未
タ答弁并駁ヲ試ミサル已前原告訴状ノ文章

多岐兩意ニ涉リ或ハ不明瞭ニシテ到底弁論

スルトヲ得サル旨ヲ記載シタル異議申立唇

ヲ差出ス
ト得ハキモノトス

此場合ニ當リ裁判所ニ於テ果シテ之ヲ不完

トス

全ト判決シ而其後二日以内ニ原告ニ於テ更
正セザルハ其訴状ヲ却下シ而其費用ヲ負擔
セシムヘシ

第九十五条 此ノ如キ異議ノ申立昏ニ関スル
處分手續ハ答弁書或ハ其他ノ弁論昏ニ對ス
ル異議ノ申立ト同一ナリトス(最上裁判所ニ
於テ制定シタル海上裁判規則第三十六条參

照)

第九十六条 原告人ハ被告人ヨリ答弁書又ハ
反對申立昏ヲ差出シタル日ヨリ四日以内ニ
更ニ其答弁昏又ハ反對申立昏ニ對スル異議
ノ申立昏ヲ差出シ而其不備不適當或ハ無効
ナル所以ヲ弁明スルヲ得ヘシ但シ右申立

昏ニハ昏記局ニ備ヘタル用紙ヲ用ヒ而前短
ニ其異議ヲ唱フル條件ヲ記載スヘキモノト
ス

此場合ニ於テ被告人若シ右申立ニ服シタル
片ハ其旨ヲ原告人ニ通知シ或ハ不服ナル片
ハ之ヲ審問ニ附スルヲ求メ而シ其審問期
日ヨリ四日已前ニ其旨ヲ通知スヘシ但シ被
告人此處分ヲ急ル片ハ恰モ裁判所ニ於テ右
異議ノ申立ヲ認可シタルキト同一ノ命令ヲ
登記セラレハシ(最上裁判所ニ於テ制定シタ
ル海上裁判規則第二十八条及ヒ第三十六条

参照)

第九十七条 若シ又一方ノ者不全ノ異議昏ヲ

ルノ申立ニ服シタル片ハ其旨ヲ通知シタル
後四日以内ニ更テ答弁スヘキモノト
ス

若シ審問ノ上右申立ヲ認可シタル片ハ裁判
所ノ指定スル期日内ニ更ニ答弁スヘシ
若シ右審問ヲ正当ニ遂ケサルカ又ハ正当ナ
ル答弁答ヲ差出サ、ル場合ニ於テハ被告人
ノ差出シタル答弁書又ハ反対申立答ハ無効
トシ而シテ懈怠者タルノ登記ヲ受クヘシ(最上
裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則第ニ
十八条及ヒ第三十条及ヒ第三十六条参照)
第九十八条 不適當タル申立ニ服シ或ハ之ヲ
裁判所ニ於テ認可シ或ハ被告人正当ノ審問

ラ遂ケサル片ハ答記ニ於テ答弁答又ハ反対
申立答中ヨリ右異議ノ条件ヲ除却スヘシ(最上
裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則第ニ
十六条参照)

第九十九条 各訴訟関係者ハ反対申立答或ハ
答弁答或ハ其他ノ弁論答及ヒ若シ故障アリ
タル片ハ之ヲ訂正シタル日ヨリ四日以内ニ
他ノ関係者ニ対シ質問ヲ起スヲ得ヘシ(最
上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則第
三十二條及ヒ第三十三條参照)

第百条 質問書ノ謄本ハ之ヲ受クヘキ者又ハ
 其代言人アルハ其代言人ニ送致シ若シ其
 者之ニ對シ不服ナルハ其旨ヲ之ヲ送致シ
 タル者ニ通知シ然ル後判事ノ許可ヲ仰ク為
 ノ之ヲ判事ニ差出ス可キモノトス
 判事之ヲ許可シタルハ之ヲ書記ニ差出し
 而シ其旨ヲ通知シ其後十日以内ニ其答弁各
 ヲ差出ス可シ

若シ原告人之ヲ怠ルハ其訴状ヲ却下セシ
 レ若シ其被告人ニ係ルハ其反對申立或ハ
 答弁ハ之ヲ無効タラシメ且ツ懈怠者タルノ
 記入ヲ受ク可シ(最上裁判所ニ於テ制定シタ
 ル海上裁判規則第三十二條及第三十三條參照)

第一百一条 質問書ニ對スル答弁書ハ被告人ヨリ
答弁書又ハ反對申立書ヲ差出シタル場合ト
同一ノ方法ヲ以テ之ヲ弁駁スルヲ得ルカ
故ニ總テ異議ノ申立ニ関スル規則ヲ適用ス
可キモノトス

若シ原告人ニ於テ質問ニ對シ答弁ヲ為シタ
ル場合ニ當リ更ニ一方ノ者ニテ其答弁ニ對
シ弁駁ヲ受ケタル後其答弁書ヲ訂正セサル
中ハ其訴訟ハ不完全トシテ訴狀ヲ却下セラ
ル可シ

然レモ合衆國ノ便益ニ係ル訴訟上合衆國ニ
對シ為シタル質問ニ對シ答弁ヲ求ム可キ場
合ニ於テハ前上ノ規則ヲ適用スルヲ得ス

(最上裁判所ニ於テ制定シタル海上裁判規則

第三十二條及ヒ第三十三條参照)

第一百二條 凡ソ訴訟關係者ハ審理中訴訟眞偽
ノ誓ヲ請求スルヲ得サルモノトス

第一百三條 凡ソ訴訟ハ慣例裁判所ノ規則ト同
一ノ主義ニ依リ之ヲ連合スルヲ得可シ

第一百四條 數多ノ訴訟ヲ受理シタル場合ニ於
テ各自ノ請求又ハ答弁皆テ同轍ニ出ラタル
中ハ裁判所ハ其意見ニ依リ令狀ヲ發シ一事
件ノ判決ヲ以テ其他ノ事件ノ關係者ヲ服從
セシメ而シテ後令其總關係者ニ於テ共同ノ利
益ヲ有セサル場合ト雖モ該判決ニ服シタル
中ハ之ヲ他ノ事件ノ始末皆ニ登記ス可シ

第百五条 凡ソ証拠認取ニ関スル令状ヲ求ムル場合ニ於テ巡回裁判所ノ規則ニ依リ之ヲ求メサルハ反對申立各又ハ答弁各ヲ差出シタル時ヨリ四日以内ニ之ヲ求ムヘキモノトス(反對申立書又ハ答弁ニ對シ異論アリタル場合ニ限ル)

然レモ若シ右令状ヲ求メタル者ヨリ他ノ一方ニ對シ質問ヲ起シタルハ其質問ニ應ジタル答弁各ヲ差出シタル時ヨリ四日内ニ之ヲ求ムヘキモノトス否ラサレハ右令状ハ審理手續ヲ中止スルノ効力ナシトス但シ相当ノ事由アル中ハ出訴ノ後ニシテ未タ弁論終結セサル已前或ハ懈怠ノ言渡若クハ枝葉ノ

裁判アルタル後何時ヲ論セス右令状ヲ求ムルヲ得可シ(巡回裁判所規則第四十一条乃至第五十条参照)

第百六条 令状ノ執行ヲ求メタル誓各ニハ証明ヲ拒絕スヘキ事由及ヒ証拠ヲ認取シ而シテ令状ヲ復命スルニ相当ト思料スル処ノ時限ヲ記載スヘキモノトス

第百七条 若シ相手方ヨリ各面ヲ以テ右誓各中ニ記載シタル事由ニ對シ証拠ヲ陳述スヘキ旨ヲ申立タルハ其審理ヲ中止スルヲ許サズ但シ右誓各ハ審問ノ席ニ於テ朗讀シ且ツ指名シタル証人ヲシテ此等ノ事由ヲ証明セシメタルト同一ノ効アルモノトス

第百八条 右令状ノ請求ハ裁判所開廷期限内中
ナル中ハ裁判所若シ開廷中ナル中ハ裁判所
外ニアル判事ノ面前ニ於テ之ヲ報告提起ス
ヘキモノトス此場合ニ於テハ一名ノ委員ヲ
選任セラル可シ但シ特別ノ事由アリテ更ニ
増員ヲ要スル中ハ格別ナリトス
又委員選任ノ費用ハ関係者双方ニ於テ増員
ヲ要スル場合ノ外一名以上ノ費用ヲ徴收ス
スルヲ得ス

第百九条 関係者双方ニ於テ一致セサル場合
ニ於テハ判事ノ認定ヲ受クル為ノ問答ニ関
スル質問ヲ判事ニ差出スヘシ此場合ニ於テ
ハ其異論者ヨリ一日巳前ニ其旨ヲ通知スヘ
キモノトス

第百十条 反對質問各ハ原質問各受取リ或ハ
之ヲ承諾シタル日ヨリ四日以内ニ送致ス可キ
モノトス但シ其送致ヲ受ケタル日ヨリ五日
以内ニ判事ニ對シ前条ノ通知ヲ為サ、ル中
ハ其送致ヲ受ケタル質問各ニ對シ異議ナキ
モノト認定セラル可シ

第百十一条 関係者双方ニ於テ承諾シ或ハ判
事ノ決定シタル質問各ハ証拠認定ニ関スル
令状ニ附添ス可キモノトス

第百十二条 各記及ビ右令状ヲ求メタル者ノ
代理人或ハ若シ関係者双方ニ於テ令状ヲ求
メ或ハ双方ニ於テ質問ヲ起シタル中ハ其双